

学則の変更の趣旨等を記載した書類

A. 学則変更（収容定員変更）内容

(1)健康栄養学部管理栄養学科の入学定員は80人、収容定員は320人である。このたび下記の必要性により、平成26年度から入学定員を120人、収容定員を480人とする。

(2)人文学部心理学科（平成26年4月新設学科）を下記の必要性により、入学定員100人、3年次編入学定員2人、収容定員404人で開設する。この心理学科の設置に伴う収容定員については、既設の人文学部人文学科の収容定員810人を406人に定員減し、残りの収容定員404人を心理学科に振り替える。

B. 学則変更（収容定員変更）の必要性

1. 社会的要請と卒業生の進路

(1)健康栄養学部管理栄養学科

健康栄養学部管理栄養学科は、平成16年に人間健康学部管理栄養学科として開設し（平成23年度に健康栄養学部管理栄養学科に改組）以来10年目を迎える。この間、堅実な学部（学科）運営に努め、順調に発展を遂げてきた。これらの背景には、社会のニーズに即応できる人材の養成を目指し、教育の質の向上に努めてきたことが挙げられる。ここでは、健康栄養学部（管理栄養学科）の収容定員変更の認可申請するに至った経緯を卒業生の就職、志願者の動向及び教育課程の編成等の観点から述べる。

1) 卒業生の就職と社会的な期待

本学健康栄養学部管理栄養学科の卒業生の就職率は、毎年ほぼ100%である。本学卒業生に対する求人のは多くは、特に、医療・福祉施設、委託給食、医薬品関係、栄養教諭、幼稚園・保育所等で、管理栄養士として社会から高い期待が寄せられている。

近年、我が国の急速な高齢化に伴い、人々の健康の維持・増進、疾病の予防・治療のための食を中心とした介入の重要性が日々高まっており、高度の専門性と幅広い教養をもった管理栄養士の養成への期待が増大している。

その例として、平成17年からの小・中学校における栄養教諭の導入、平成18年の診療報酬改定に伴う栄養サポートチーム（NST）加算の導入、平成20年からの「特定健康診査・特定保健指導」の開始、平成21年からの介護保険制度改正に伴う居宅サービス利用者に対する栄養ケア・マネジメント体制の整備、平成24年度診療報酬改定における栄養管理体制の強化等、各分野で管理栄養士の活躍の場が拡大していることが挙げられる。今後のさらなる高齢化に伴い、介護・福祉分野で管理栄養士の需要が一層高まることが予想される。本学の所在地である愛知県では、管理栄養士養成校が相次いで設立され、需要と供給の不均衡が指摘される声もある。しかし、食を通じた人々の健康の推進は、医療・介護での財政的な理由からも社会的要請は非常に強く、質の高い管理栄養士の需要はより一層高まっていくものと思われる。

また、管理栄養士の資格に加え、フードスペシャリスト、NR・サプリメントアドバイザー、食

品衛生管理者等の資格を取得することで、ドラッグストア、外食産業、食品製造分野等、さらに活躍の場が広がることが期待される。

2) 就職状況

本学健康栄養学部の卒業生の過去3年間における卒業後の進路は、表1が示すように、大学院等への進学・その他の進路を除いて、90%以上が就職している。就職希望者に占める就職率は、例年ほぼ100%である。

表1 卒業生の進路状況

	平成23年度		平成22年度		平成21年度	
就職	78人	(91.8%)	82人	(93.2%)	75人	(93.8%)
* (就職率)	(100.0%)		(100.0%)		(95.0%)	
進学	3人	(3.5%)	0人		1人	(1.2%)
その他の進路	4人	(4.7%)	6人	(6.8%)	4人	(5.0%)
未定	0人		0人		0人	
卒業生合計	85人		88人		80人	

・就職希望者に占める就職決定者の割合

平成24年3月卒業生は、表2から明らかなように、大部分が管理栄養士・栄養士の資格を活かして就職している。就職先については、特に、委託給食(約37%)、病院・福祉(約26%)が多く、これらを合わせて60%以上を占めている。また、割合は多くないが、栄養教諭、幼稚園・保育園のような子どもを対象とする教育・福祉分野や医薬品関連などにおける管理栄養士・栄養士としての就職も見られる。このように本学部学生の卒業後の進路は、大部分が4年間の学業で習得した専門知識・技能を活かすことのできる分野であり、また、多くの学生にとって本学部への入学を希望した志望動機である管理栄養士への道が叶えられたものである。

表2 卒業生の就職先(平成23年度)

進路	人数(人)	割合(%)
管理栄養士	63	80.7
委託給食	29	37.2
病院・福祉	20	25.6
栄養教諭	1	1.3
幼稚園・保育園	3	3.8
医薬品関連企業	10	12.8
研究教育機関	2	2.6
食品関連企業	6	7.7
その他(公務員・企業等)	7	9.0
合計	78	100.0

このように、卒業生の大部分が専門性の高い分野に就職しているが、この背景には、社会からの本学部を卒業する管理栄養士に対する強い需要があると考えられる。表 3 に見るように、平成 23 年度卒業生 85 人に対し求人件数は合計 169 件で、学生 1 人に対して約 2 件となっている。しかもこの求人の多くが管理栄養士・栄養士資格取得者に対するものであり、また、医療関係の求人数は 101 人と学生数を超えるものである。

表 3 本学管理栄養学科学生への求人件数（平成 23 年度）（件）

	医療関係	特養・保育園等	食品メーカー・委託給食	県庁・市役所
愛知県・岐阜県・三重県	26	22	42	2
愛三岐以外	22	26	28	1
小計	48	48	70	3
合計	169			

- ・求人があった病院・施設・企業等の件数で、複数人数の求人のある場合も 1 件とした。
- ・医療関係は管理栄養士・栄養士資格取得者を求人対象とし、48 施設で求人数は 101 人。
- ・食品メーカー、委託給食は、管理栄養士・栄養士資格取得者以外を対象としたものも含む。

以上のような本学部学生に対する高い需要の背景には、本学部が社会のニーズに即応できる人材の養成を目指し、教育の質の向上に努めてきたことがある。それは、学内での実験・実習科目や臨地実習等における指導、管理栄養士国家試験支援における基礎学力養成の両面について、4 年間の教育課程において、丁寧で、きめ細かく、効果的な指導を実施することにより実現されている。特に臨地実習に関しては、「栄養総合演習Ⅰ」、「栄養総合演習Ⅱ」等の科目における事前事後指導を通して、学生が臨地実習に必要な知識の習得ばかりでなく社会人としてのルールも習得できるプログラムを組み、臨地実習の教育効果を高めることに努めている。また、「栄養総合演習Ⅲ」、「栄養総合演習Ⅳ」等の科目では、管理栄養士に求められる基礎的・実践的知識の習得を懇切丁寧に指導して、管理栄養士国家試験合格レベルにまで学力を向上させることに努めている。

以上のように、これまでの本学の教育体制は高い教育効果を発揮し、その成果として、管理栄養士有資格者に対する社会からの需要は増大している。このような状況から、本学部の収容定員増は社会的要望に沿うものであると考える。

【添付資料(1) 健康栄養学部の卒業後の就職先リスト 参照

(2) 人文学部心理学科

人文学部人文学科は平成 12 年の設置以来、心理学を中心とした履修モデルコース（発足時の名称は「人間行動コース」、現在は「心理学系」）を設定し、入学者のおおよそ 4 割前後が心理学系の履修コースを一貫して志望してきた。人文学部内の履修コースとしては比較的充実した心理系科目を配置し、一定の水準を満たす心理学教育を実践してきた結果、これまで人文学部心理学系は大学院進学者や心理系専門職就業者を含む多くの卒業生を輩出してきた。新設する心理学科

では、人文学部人文学科として発足した理念と教育的資源を継承しつつ、こころと行動に関する専門的な心理学的知識と技能をより体系的に習得する機会を提供する。さらに、社会的問題・心理臨床的現象の背景にある心理的要因を理解し、分析し、それらの問題を解決する技術と能力を身につけるための、より高い水準の教育実践を目的とするものである。

1) 心理学に対する社会的要請

災害によって心的外傷をおった人々、陰惨な犯罪事件、学校でのいじめ、児童虐待、発達障害の存在など、人々が心理学的な知識や問題解決を求める場面や対象は減る気配を見せない。また、物質的な豊かさよりも精神的な豊かさを希求する気運がますます高まっている。現在、人間に関する否定的側面と肯定的側面のいずれにおいても、心理学や関連諸科学に対する期待は増大している。したがって、人間の心や行動に関する科学的な見方とそこから得られた知識や情報を妥当な学問的背景に基づいて提供できる人材の幅広い育成が社会的に求められている。

2) 問題解決能力の必要性

社会の変化の加速化に伴い、旧来の知識や紋切り型の方法論が通用しない場面が増えている。同時に、情報技術の発展と普及によって一般的な知識は即座に入手できるようになった。これらの結果、単に断片的な知識を多くもつことの価値は減少し続けている。むしろ、これからの社会で重要なことは、状況を的確に分析する視点と手法を身につけていること、周囲の人々と協調しながら目標を達成するコミュニケーション能力を備えていることである。心理学の基本的な視座、研究技法、分析技法を習得し、それを現実場面に応用する能力は、さまざまな業務における一般的な問題解決力を高める最良のツールのひとつとなりうる。

3) 卒業後の具体的進路

以上のような心理学の知識と技能をもとに、優れたコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた人材は、一般的な企業業務、広義の心理支援職、教育研究職での活躍が想定される。企業業務においては、民間企業におけるマーケティング部門、人事部門、福利厚生部門などが心理支援職としては医療関係福祉関係司法行政関係などが挙げられる。また大学院進学等想定した、より高いレベルのカリキュラムを設定していることから、教育研究職等での活躍も視野に入る。

2. 入学志願者の動向と学生確保の見通し

(1) 健康栄養学部管理栄養学科

1) 入学志願動向

この愛知県地区には管理栄養士養成課程のある大学が現在 12 校あり、本学と競合する他大学 6 校の志願者数（一般入試前期及びセンター試験利用入試・2013 年 2 月 20 日現在）をみても、対前年度比で 5 校が 22%～68%の間で増加している。その中で本学は 164%と驚異的に志願者を増やしている。

また、『20 年間のマーケット・トレンドと学部・学科開発』の学科のライフサイクルとマーケ

ット・トレンド（全国国公立大学）において18歳人口のピークの1992年を起点とし、最新年2012年までの20年間でみると、志願者数は大幅に増加しており、2012年では募集定員6,280人に対して、志願者46,699人と7倍以上の志願率となっている（表4 家政・生活系統の動向の「栄養・食物学」）。さらに、表5に示すように志願者数の増減が大きい学科系統(2008-2012年)からも「栄養・食物学」は志願者数が増加し続けている。

したがって、愛知県下はもとより全国的な状況をみても、当該分野は志願者のニーズに応える受け皿として、今後も十分な受験者の確保が、相当数見込まれると判断できる。

【添付資料(2)】 家政・生活系統の動向 参照

【添付資料(3)】 系統別詳細分析 家政系【管理栄養】 参照

■志願者数×募集定員数 推移（1992、1996、2000、2004、2008、2012）

表4 家政・生活系統、栄養・食物学の動向

年 度	募集定員数	志願者数
1992(平成 4)年	3,064人	18,940人
1996(平成 8)年	2,803人	25,831人
2000(平成 12)年	3,279人	23,921人
2004(平成 16)年	5,004人	35,200人
2008(平成 20)年	5,603人	34,990人
2012(平成 24)年	6,280人	46,699人

表5 志願者数の増減が大きい学科系統（2008-2012年）

2008年から2012年で志願者数が増加した

2008年から2012年で志願者数が減少した

学科系統上位20位

学科系統上位20位

順位	学科系統（小分類）名称	08-12志願者増減（人）
1	看護学	37,532
2	教育学	26,006
3	医学（専門課程）	22,079
4	医療技術学	13,827
5	栄養・食物学	11,709
6	保育・児童学	11,367
7	生命科学	10,886
8	心理学	10,766
9	情報工学	7,021
10	語学（外国語）	6,814
11	応用化学	6,164

順位	学科系統（小分類）名称	08-12志願者増減（人）
1	商学	-44,910
2	経済学	-35,152
3	法学	-34,862
4	経営学	-23,764
5	外国文学	-10,137
6	政治・政策学	-7,717
7	社会学	-7,518
8	国際関係学	-4,650
9	デザイン	-4,643
10	美術	-3,776
11	歯学（専門課程）	-3,116

12	歴史学	4,739
13	物理学	4,439
14	スポーツ学	3,694
15	リハビリテーション学	2,897
16	建築学	2,842
17	農学	2,646
18	機械工学	2,539
19	地理学	2,295
20	日本文化学	2,182

12	福祉学	-3,038
13	薬学	-2,916
14	人間科学	-2,411
15	応用物理学	-2,087
16	獣医・畜産学	-2,079
17	文芸学	-1,802
18	画像・音響工学	-1,651
19	日本文学	-1,374
20	環境工学	-1,344

2) 入試志願状況

本学の入学者選抜方法は、推薦入試、一般入試、センター試験利用入試、AO入試等の入試選抜方法を取り入れている。

また、推薦入試においては、自己推薦、資格取得者、スポーツ推薦の枠を設け、学力のみならず、学芸等にすぐれた才能を持つ受験生や、勉学の意欲の高い学生の受け入れに努めてきた。

近年、東海地区では管理栄養士養成校が相次いで開設され、学生募集において競争が激化し、さらに、近年の18歳人口の減少や不況等大学を取り巻く環境が厳しさを増している中で、本学への志願者数は、平成20年度376人、平成21年度459人、平成22年度464人、平成23年度639人、平成24年度546人、平成25年度1,054人と継続的な増加傾向を示している。

表6 健康栄養学部管理栄養学科 入試結果（過去4年間）

年度	平成25年度			平成24年度			平成23年度			平成22年度		
	入試区分	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者	倍率	志願者	合格者
推薦入試	228	82	2.78	180	87	2.07	140	86	1.63	130	78	1.66
AO入試	33	6	5.50	36	6	6.00	20	9	2.22	22	9	2.44
一般入試	712	46	15.40	298	56	5.32	423	52	8.13	268	118	2.27
センター試験 利用入試	81	7	11.60	32	5	6.40	56	8	7.00	44	9	4.88
合計（倍率平均）	1,054	141	7.48	546	154	3.55	639	155	4.12	464	214	2.17
入学者 (4月1日現在)		99			90			91			98	

※ 人文学部入学定員 80 人

表6の通り、特に平成23年度及び平成24年度において多くの志願者を集めている。平成25年度入試では、過去3年間入学者数が定員の1.1倍を上回ったことへの対策として、指定校数の削減や各高校への出願条件を厳しくする等の措置を取ったにもかかわらず、指定校推薦出願者が

例年に増して多く 48 人となった。

平成 25 年度推薦入試及び AO 入試の志願者合計は 261 人、合格者 88 人となり、倍率は 3.0 倍となった。AO 入試においては 33 人の志願者があり 6 人の合格者で 5.5 倍であり、公募推薦（前期・後期）のみにおいては 154 人の志願者があり 25 人の合格者で 6.2 倍の高倍率となった。また、一般入試（センター試験利用入試を含む）においても志願者が激増し、793 人の受験者で 53 人の合格者となり 14.9 倍の高倍率を出す結果となった。本学の入学試験において、今後もこのような高倍率が続けば、これまで受験生を送ってきていただいた高校からの出願が見込めなくなるという懸念がある。入学試験は高校との信頼関係、競合する他大学と比較したポジションから成り立っており、高倍率を出すことで、これまでより高成績の受験生が短期間に本学の受験層となることは予想しにくい。このような背景から、平成 26 年度以降入試において入学定員の超過の現状を是正するうえで、この度の収容定員増は必要不可欠な状況にあると言える。

このような志願者数増加の背景には、人間健康学部管理栄養学科開設時以来の目的として、臨床に強い、即戦力となる管理栄養士の育成を掲げ、臨床栄養分野で実務経験の豊富な管理栄養士、医師を配置し、学生教育の質の向上を図ってきたことに加え、国家試験合格に向けた早い時期からの試験対策講座の開講及び支援室の設置による学生支援体制の充実等、国家試験対策に力を入れてきたこと等が挙げられる。

これらの成果が、管理栄養士国家試験合格率において、平成 22 年度には 95.0%、平成 23 年度には 98.7%と全国 106 大学の管理栄養士養成校の内 24 位という高い合格率を示し、全国平均を大きく上回る良好な結果に結びついたことが、志願者数の増加の一因となっていると考えている。

3) 入学定員超過における今後の対応

本学の入試は、入試広報委員会を中心に学生募集の広報活動、入試日程・選抜方法等を総合的に計画立案している。可否の判定についても、入試広報委員会が原案を作成し各学部の教授会において審議し決定している。

平成 26 年度以降、AO 入試・推薦入試（指定校、公募）においては、募集定員を順守し可否判定をする。また、一般入試・センター試験利用入試においては、他大学との併願率も高く、入学者の歩留まりを予測することに苦慮しているところであるが、過去のデータや他大学の入試状況等の綿密な分析を行うとともに、受験者の動向を多角的に調査し、合格者を決定する。

以上、健康栄養学部のみならず、本学全学部の入試における合格者・入学者の決定については、受験者の分析、各種データの活用、本学入試における過去の歩留データの見直し、進学者の動向等について多角的な調査を行い、これまでのような入学率、辞退者の予測誤算を避けるべく、入試体制を整備していく所存である。

(2) 人文学部心理学科

1) 入学志願動向とマーケット

本学は、大学全体において【添付資料 2】に示すように、近年志願者増の状態が続いている。一般入試前期・センター試験志願者数については、平成 22(2010)年度 1,237 人であったが、平成

25(2013)年度は、3,039人と約2.5倍に増加している。対前年度に比較しても806人の志願者増があり、愛知県で7位となっている。志願者の比率についても、前年度比36.1%で愛知県で3位であり、平成21(2009)年度との比較では145.7%とトップの位置づけとなる。

【添付資料1-1】「志願者UP(数)TOP20大学」参照

【添付資料1-2】「志願者UP(率)TOP20大学」参照

また、愛知県下の心理系の学部・学科を設置している他大学の状況をみると、愛知学院大学、愛知淑徳大学、金城学院大学、椙山女学園大学、中京大学、中部大学、南山大学の7校の志願者数（一般入試前期及びセンター試験利用入試・2013年2月20日現在）をみても、対前年度比で7校すべての志願者数が増加している。

さらに、『20年間のマーケット・トレンドと学部・学科開発』の学科のライフサイクルとマーケット・トレンド（全国国公立大学）において18歳人口のピークの1992年を起点とし、最新年2012年までの20年間でみると、志願者数は大幅に増加しており、2012年には募集定員7,566人に対して、志願者54,552人と7倍以上の志願率となっている（表1 人間・心理・教育・福祉系統の動向の「心理学」）。またさらに、表2に示すように志願者数の増減が大きい学科系統(2008-2012年)からも「心理学」は志願者数が増加し続けている。

したがって、愛知県下はもとより全国的な状況をみても、当該分野は志願者のニーズに応える受け皿として、今後も十分な受験者の確保が、相当数見込まれると判断できる。

【添付資料2】人間・心理・教育・福祉系統の動向「心理学」参照

【添付資料3】系統別詳細分析 人間・心理・哲学系【心理/哲学・宗教/人間科学・人間関係】参照

表1 人間・心理・教育・福祉系統の動向の「心理学」

志願者数×募集定員数 推移（1992、1996、2000、2004、2008、2012）

年 度	募集定員数	志願者数
1992(平成4)年	1,105人	22,159人
1996(平成8)年	1,338人	33,463人
2000(平成12)年	2,067人	34,487人
2004(平成16)年	6,439人	46,969人
2008(平成20)年	6,558人	43,786人
2012(平成24)年	7,566人	54,552人

表2 志願者数の増減が大きい学科系統（2008－2012年）

2008年から2012年で志願者数が増加した

2008年から2012年で志願者数が減少した

学科系統上位20位

学科系統上位20位

順位	学科系統（小分類）名称	08-12 志願者 増減（人）
1	看護学	37,532
2	教育学	26,006
3	医学（専門課程）	22,079
4	医療技術学	13,827
5	栄養・食物学	11,709
6	保育・児童学	11,367
7	生命科学	10,886
8	心理学	10,766
9	情報工学	7,021
10	語学（外国語）	6,814
11	応用化学	6,164
12	歴史学	4,739
13	物理学	4,439
14	スポーツ学	3,694
15	リハビリテーション学	2,897
16	建築学	2,842
17	農学	2,646
18	機械工学	2,539
19	地理学	2,295
20	日本文化学	2,182

順位	学科系統（小分類）名称	08-12 志願者 増減（人）
1	商学	-44,910
2	経済学	-35,152
3	法学	-34,862
4	経営学	-23,764
5	外国文学	-10,137
6	政治・政策学	-7,717
7	社会学	-7,518
8	国際関係学	-4,650
9	デザイン	-4,643
10	美術	-3,776
11	歯学（専門課程）	-3,116
12	福祉学	-3,038
13	薬学	-2,916
14	人間科学	-2,411
15	応用物理学	-2,087
16	獣医・畜産学	-2,079
17	文芸学	-1,802
18	画像・音響工学	-1,651
19	日本文学	-1,374
20	環境工学	-1,344

平成24年度愛知県教育委員会主催の「あいちの大学『学び』フォーラム」（高校1・2年生を対象に、愛知県の大学教員が大学での「学び」のおもしろさを伝えることを目的としたもので、文系から理系まで様々なテーマで大学と同じ90分の講義）の各講座の参加人数で、「人間関係を上手くやるコツ教えます 対人魅力の心理学」をテーマとした心理学の授業が高校生の興味・関心度が21講座の中で一番高いものであった。

【添付資料4】「あいちの大学『学び』フォーラム各講座参加人数」 参照

2) 入試志願状況

本学の入学者選抜方法は、大別して推薦入試、一般入試、センター試験利用入試、AO入試等の入試選抜方法を取り入れている。推薦入試においては、自己推薦、資格取得者、スポーツ推薦の枠を設け、学力のみならず、学芸等にすぐれた才能を持つ受験生や、勉学の意欲の高い学生の

受け入れに努めてきた。

近年、学生募集において競争が激化し、さらに、近年の18歳人口の減少や不況等大学を取り巻く環境が厳しさを増している中で、本学への志願者数は、表3の通り平成22年度663人、平成23年度774人、平成24年度761人、平成25年度791人と継続的に安定した志願者を集めている。

表3 人文学部人文学科 入試結果（過去4年間）

年 度	平成25年度			平成24年度			平成23年度			平成22年度		
	志願者	合格者	倍率									
推 薦 入 試	181	164	1.10	189	168	1.13	192	175	1.10	197	188	1.05
A O 入 試	50	31	1.61	51	33	1.55	50	40	1.25	36	33	1.09
一 般 入 試	490	302	1.62	452	242	1.87	417	199	2.10	321	269	1.19
セ ン タ ー 試 験 利 用 入 試	70	39	1.79	69	31	2.23	115	64	1.80	109	70	1.56
合 計（倍率平均）	791	536	1.48	761	474	1.61	774	478	1.62	663	560	1.18
入 学 者 (4月1日現在)		205			234			225			275	

※ 人文学部入学定員 200 人

このような志願者数増加の背景には、人文学部人文学科は設置以来、定員 200 人に対し常に定員を超える入学者を順調に確保してきた。本学は設立してまだ歴史の浅い大学であるが、堅調な学生募集実績を示している事実は、学園全体の長い歴史と教育実績に対して地域社会が高い信頼を寄せていることに加え、浄土宗立の大学であることによって醸し出される高い精神性、とりわけ本学の建学理念である「共生き(ともいき)」が時代の共感を持って迎えられていることの表れと評価される。本学志望者層における心理学の教育的需要に関しては、これまでの人文学部人文学科入学生のうち心理系希望者が一貫して約4割を占めていたことから非常に高いものと考えられる。心理学科として独立し、より充実した教育体制を整えることによって訴求力がいっそう高まることを考慮すると、十分に良好な入学志望者数が予想される。

3) 学生確保に向けた入試広報活動による取り組み

学部と入試広報課が一体となった広報活動により、学部の教育内容、就職状況などの情報を伝えることで、人文学部への関心度を高めるように努めている。具体的な取り組みとしては以下に示すような広報活動を行っている。

ア. 高校から依頼される「出前講義」「高校内ガイダンス」の講師派遣や施設・授業見学を目的とする「学校見学」を受け入れている。過去2年間の実績を資料に示した。

【添付資料5】「出前講義・高校内ガイダンス」 参照

イ. 入試広報課所属の参与による高校への広報活動を行っている。平成24年度の活動実績を資

料に示した。

【添付資料 6】「2013 年度入試担当者参与による高校訪問活動」 参照

ウ. 入試広報課による入試説明会を開催している。過去 3 年間の活動実績を資料に示した。

【添付資料 7】「高等学校進路担当者対象入試説明会（過去 3 カ年実績）」 参照

エ. 体験授業・体験実習・展示による大学の学びを体験してもらう「オープンキャンパス」を開催している。過去 3 年間の参加人数を資料に示した。

【添付資料 8-1】「平成 24 年度オープンキャンパス実施報告」 参照

【添付資料 8-2】「平成 23 年度オープンキャンパス実施報告」 参照

【添付資料 8-3】「平成 22 年度オープンキャンパス実施報告」 参照

オ. 入試情報や学部の活動（ガクブログ）を大学のホームページを使って配信している。
(<http://www.tokaigakuen-u.ac.jp/index.htm>)

【添付資料 9】「ホームページ ガクブログ」 参照

4) その効果・反応

教育や入試広報活動による効果・反応としては、「オープンキャンパス参加人数の増加」と「入学志願者の増加」が挙げられる。平成 24 年度のオープンキャンパスの場合、学部への参加者はのべ人数 725 人で、対前年比では横ばいであるが、一昨年度に比して 152%の増であった。また、入学志願者については平成 25 年度入試の場合、791 人で、ここ 2～3 年間着実に 700 人台の受験者を集めている。

C. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

1. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 健康栄養学部管理栄養学科

平成 16 年度に設置した人間健康学部管理栄養学科を母体として、当初からの教育方針と目的である『人々の健康保持に貢献できる高度で専門性の高い業務を担える管理栄養士養成』に全力をあげてきた。また、並行して教育内容を常に見直し、必要に応じて改革を進めてきた。とりわけ、臨床栄養分野では実務経験のある管理栄養士を配し、その後、さらにこの分野の強化のため医師の増員と、実習センターへの介護福祉系、病院系の実務経験を有する職員の配置と充実を図ってきた。この成果は、臨地実習先の施設における本学の評価につながってきていると思われる。

平成 23 年からの健康栄養学部管理栄養学科では、大学における 4 年間の 4 つのステップに分け、学生自身が自分の将来ビジョンや興味に基づいた学修計画を立て、系統的な学修が可能なように教育課程を編成してきた。具体的には、4 つの履修モデルを立て各領域の充実を図ってきた。学生が 4 年間の学びを通して、『臨床栄養』、『食品開発・分析』、『栄養教諭』、『スポーツ栄養』の 4 つの領域から自分の希望する領域を選択し、重点的に学ぶことによって、得意分野をもつ専門性の高い管理栄養士を目指す教育システムである。

これに伴って、『NR・サプリメントアドバイザー』の資格も新たに導入した。この資格に関連する科目として「臨床医薬概論」を新たに加え、これまで管理栄養士に不足していると指摘され

てきた薬学分野のカリキュラムの充実を図った。

さらに「給食マネジメント実習Ⅱ」を付加し、各種分野の施設における給食の基礎となる給食マネジメント力の強化にも取り組んできた。

全学的な教育改革として学士力向上の基礎を確立するため、「全学共通科目」を設置し、キャリア関連科目の充実と必修化により、勤労感・職業感を身につける教育の充実を図っている。さらに、管理栄養士に求められる理解力、判断力、コミュニケーション能力を育成することを目指し、「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、「日本語表現法A(音声)」、「日本語表現法B(文章)」等の選択科目を、積極的に履修をするように指導するとともに「日本語表現法A(音声)」、「日本語表現法B(文章)」担当の専任教員を本学部に配置し十分な教育体制をとってきた。

また、1年生から4年生まで少人数ゼミ担当制を採用して、学生の勉学上・生活上の悩み、国家試験対策等あらゆる問題点にいち早く対応できる体制を整えた。その他、管理栄養士養成への導入教育として1・2年生を対象とした学部行事を企画し、統一テーマのもとに、各ゼミ単位で個々のテーマに取り組み、調べ学習を通し専門性に触れながら学問をする姿勢を培い、将来の目的を共有する友との絆を強める機会を提供している。その他の学部行事として、秋には3年生企画で2年生を交えた臨地実習報告会や、1・2・3年生対象のスポーツ大会を行っている。また、4年生の卒論発表会も3年生が企画運営し、当該の4年生だけでなく、2・3年生を含めた学会形式の発表会を開催している。管理栄養士の専門について知識を深めつつある3年次には、大きな組織を動かすためのマネジメント能力の育成等の知力を身につける機会を提供している。

このような人材養成は、本学の建学の理念である相互に啓発しあい、補い合って前進・進歩していく「共生(ともいき)」の精神に合致するものでもあり、人間性における成長についても、きめ細かな相談・指導をめざし丁寧な教育体制を定着させてきた。

【添付資料(4)】健康栄養学部管理栄養学科における教育概念図 参照

【添付資料(5)】健康栄養学部管理栄養学科履修プログラム 参照

1) ステップ1(主として1年次)

本学のアドミッションポリシーの理解を始め、入学時における学力差の低減と学習基礎力の育成、管理栄養士という専門的職業人としての将来の目標の明確化をサポートするためのキャリア教育、情報リテラシー力の習得、異文化の理解等、大学生としての基礎力を習得することを目標としている。

2) ステップ2(主として2・3年次)

管理栄養士コアカリキュラムに沿い、管理栄養士国家試験のガイドラインに示されている内容を体系的に学習する。

管理栄養士として基本的に習得すべき知識や技術、態度、行動等の習得が目標である。

3) ステップ3(主として3年次)

従来から管理栄養士が活躍する分野としてきた医療福祉系や公衆栄養系、給食マネジメント系の分野は勿論、最近ではスポーツ栄養系、食品開発系等の分野へも多くの管理栄養士が就職するようになった。

このような学生や社会のニーズに合わせたカリキュラムを系統的に示し、学生が管理栄養士

の基礎的な資格とともに、さらに学生のニーズを満足させる分野の専門性を習得することを目標としている。

近年、特に学生のニーズの高いスポーツ栄養学分野に関しては、平成 23 年度より実践の場でのスポーツ栄養サポート経験のある教員を採用し、充実した教育を提供している。

4) ステップ 4 (3・4 年次)

3 年間の管理栄養士コアカリキュラムの学習成果のまとめ、管理栄養士としてのインターンシップ、卒業論文(「専門演習」において必須としている)の作成を通して管理栄養士としての職場における問題の発見・解決ができる能力の育成、卒業時に行われる管理栄養士国家試験合格を目指しての仕上げの教育である。

専門演習におけるゼミ活動は 3 年生からゼミに入り、2 年間同一ゼミに所属し活動する。そのため同学年はもとより、学年をまたがった繋がりも生まれ、効果的な人間関係も醸成されている。また、卒業論文の作成を通し、「論理的思考力」、「創造的思考力」等の育成を目標としている。

このような教育を通し、管理栄養士としての職能教育にとどまることなく、社会情勢の変化に柔軟に対応できる質の保証された、学士力のある管理栄養士の養成を目指している。

(2) 人文学部心理学科

人文学部「心理学系」は、「共生き」の建学理念のもとで、比較的充実した心理学関連科目を用意し、通常の心理学科に迫る内容の教育を実施してきた。そこには、本学が比較的小規模な大学であることの利点を活かし、正規授業におけるきめ細かい教育・指導はもとより、教員による課外ゼミ、進学セミナー、心理学専攻の学生機関誌発行、学生間交流行事の実施、学外見学会、卒論中間発表会、卒論発表会など、多彩な教育活動を実施してきた実績がある。新たに設置する心理学科は、共生きの建学理念に基づき、これらの実績の中で培われ蓄積してきた教育的資源を継承しつつ、順次性のある体系的で充実したカリキュラムと教育体制を確立する点に最大の特色がある。カリキュラムとしては、現実問題に対する分析力、解決能力の養成を重視することから、心理学の基本的な視点を獲得するための基礎的な科目と、面接法、調査法、心理統計法を含む心理学の方法論に関する科目を充実させている点に特色がある。これは一方で、広義の心理学的なアクティビティ(各種臨床的演習・共同実験作業・社会的スキルトレーニング)を含む授業の充実をも意味しており、これによって学生のコミュニケーション力を高めることを狙っている。その上で、心理学の体系的な知識を教授し、心に関係した様々な問題が生起する要因の分析及び解決策を考察するための、講義、演習、実験・実習が編成されている。

学科内の横断的な構造である専門教育コースとして、「社会・行動コース」と「対人・臨床コース」の 2 コースが置かれる。

「社会・行動コース」は、主として日常的な心理的問題への対処と解決を念頭に、社会心理学、行動心理学、認知心理学、及びこれらに関連する心理学諸領域の学習に主軸を置いたコースである。

「対人・臨床コース」は、主として精神的な問題を抱える個人への対応や支援を念頭に、臨床

心理学及び臨床心理学の基礎となる心理学諸領域の学習に主軸を置いたコースである。

各コースは、所属する学生に対して学習の方向性を自覚させ、到達度を明確化させるための履修モデルとしての機能をもつ。同時に、隣接専門領域ないし学問的関心と方向性が近接する教員を組織化することにより、教員間の連携をはかり、より充実した教育・研究の実践を促進する。

一方、大学4年間の課程を貫く授業として演習の授業が配置される。1年次から2年次までの「基礎演習」、3年次から4年次までの「総合演習」は必修科目であり、段階的な心理学の修得を支援するとともに、心理学科の学生間のコミュニケーションを促進し、互いに切磋琢磨しながら学習を進めるための連帯感をも醸成する機能をもつ。

さらに、大学4年間で以下の4段階のステップに区分し、学生自身が自らの将来展望や生活設計に基づいた学習計画を立て、系統的学習が可能となる教育課程を構成している。

【添付資料10】人文学部心理学科における教育概念図参照

1) ステップ1（主に1年次）

ステップ1は、初年次導入教育と位置づけられ、大学での学習及び大学生活への円滑な適応をめざす。そこでは、本学の建学理念の理解、学習基礎力の養成、心理学研究への動機付け、将来展望の形成開始が目的となる。そのため、「基礎演習」等によって、大学の科目履修に要求される基本的学習技能を獲得するとともに心理学への興味関心が喚起される。また、専門家としての心理学の一般的な知識を初歩から体系的に身につけるため「心理学基礎論Ⅰ」「心理学基礎論Ⅱ」を学ぶ。さらに、日常的な心理学的問題との接点が多く興味を喚起しやすく、かつ心理学の基本的思考法を養うに適していると考えられる「臨床心理学」「パーソナリティ心理学」「社会心理学」などの包括的な科目を配置する。同時に、ステップ2で本格化する実証的な心理学研究法習得の橋渡しとして、「心理統計法Ⅰ」「社会調査論」が用意される。これらに加え、より高い専門性を身につけようとする学生のために、高度な心理学研究に必須である英語文献の読解力を養成する目的で「心理学英文講読Ⅰ」「心理学英文講読Ⅱ」を置く。

2) ステップ2（主に2年次）

ステップ2は、より高度な学習技能を獲得するとともに心理学の専門性を深め、実証的な心理学研究法を体系的に身につける段階と位置づけられる。ステップ1に続いて「基礎演習」等を配置して引き続き学習基礎力の定着を図るとともに、「心理学基礎実験」「心理学特殊実験」「心理統計法Ⅱ」「心理統計法Ⅲ」「調査法Ⅰ」「調査法Ⅱ」「調査演習Ⅰ」「調査演習Ⅱ」「心理診断法Ⅰ」を配置し、研究法の基本と基幹を習得する。同時に、より専門性の高い講義科目である「感覚・知覚心理学」「障害児心理学」などを配置する。

3) ステップ3（主に3年次）

ステップ3は、実証的な心理学研究法の習得を仕上げつつ、幅広い専門知識を獲得する段階と位置づけられる。そこで、実証的な心理学研究法の習得科目として、比較的高度な方法の習得をめざす「心理診断法Ⅱ」「面接法」などを配置する。平行して、応用的な領域に関する講義科目である「文化心理学」「健康心理学」「産業・組織心理学」などを配置する。さらに、学生は専門ゼミである「総合演習」を履修し、卒業研究に向かう、より個別的専門的な学習が開始される。

4) ステップ4（主に4年次）

ステップ4は、心理学科の学びの集大成の段階と位置づけられる。主として「総合演習」で指導される卒業研究を中心とし、それまでの学習で培った総合的な能力を具体的に表現し確認する作業が課される。この段階で配置される「心理学研究法Ⅱ」は卒業研究の支援をも狙った科目である。

以上のように心理学科では、コースによる横の構造と4年間の演習による縦の構造の中で、導入と基礎作りのステップ1、方法論習得のステップ2、専門知識を幅広く深化させるステップ3、総まとめのステップ4と、段階的に高い学士力を養成すべくカリキュラムが編成される。

2. 実験・実習・演習科目の授業運営

(1) 健康栄養学部管理栄養学科

平成23年度に健康栄養学部管理栄養学科として人間健康学部から独立した。これに伴ってカリキュラム編成における専門性も広がり充実し、時間割編成における自由度が高まった。平成16年から7年間の管理栄養士養成における教育の経験を踏まえて、より学生への教育効果を高めるために以下の授業運営の変更を行っている。

1) 給食経営管理分野の教育の強化

給食経営管理分野の「給食経営管理実習」を「給食マネジメント実習Ⅰ」及び「給食マネジメント実習Ⅱ」とし、1単位から2単位に増やして、従来の半期開講のみであったものを通年の開講としている。給食経営管理は学外での臨地実習において、各施設から献立作成能力や調理技術不足が指摘されることが多い分野である。当該分野は、2単位実習（通年開講）となったことにより、一般的な給食経営管理実習（総論的な実習）「給食マネジメント実習Ⅰ」と各施設を想定した給食経営管理実習（各論的な実習）「給食マネジメント実習Ⅱ」が可能となった。この授業は献立作成、各種帳票類作成、業者への食材発注等実習前に行う事項が多い科目で、時間数が増えたことにより、学生の実務能力の向上が期待できる。

助手の配置についても、「給食マネジメント実習Ⅰ」、「給食マネジメント実習Ⅱ」とも2人配置とする。この実習は、役割分担、調理作業における区分けが必要となるため、教員1名に対し助手1名では指導が手薄になる。また、危機管理の点からも助手の複数配置が望まれる実習である。

2) 調理学実習の指導体制の強化

本学は「調理学実習Ⅰ」、「調理学実習Ⅱ」、並びに「調理学実験」を開講し、3単位の实習を行っている。「調理学実習Ⅰ」は入学直後からの開講になるため、調理をほとんど経験してこなかった学生も多く、包丁の使い方からの指導になる。このような学生を教育するためには助手の2名配置が望まれていたため、今回の申請を期に2名配置とし、指導体制を強化する。

3) 臨地実習の事前事後教育の強化

臨地実習の事前事後教育を行う「栄養総合演習Ⅰ」、「栄養総合演習Ⅱ」のコマ数を増やしている。単位数は各1単位で合計2単位である。平成22年度までは各1単位1コマ毎週開講で行っていたが、平成23年度からは1単位2コマ毎週開講にした。「栄養総合演習Ⅰ」では、1コマ目

は全体での事前指導、2 コマ目は主に各施設別の事前指導、並びに 1 コマ目で十分指導できなかった個々の学生の臨地実習施設先に合わせた個人指導等を行っている。さらに、近年臨地実習受入れ施設より指摘される学生の調理技術不足に対応するため、「栄養総合演習Ⅰ」で再度調理技術の確認指導を行なっている。「栄養総合演習Ⅱ」では全体の事後指導、並びに各学生の実習ノートの整理、実習報告書作成、発表用パワーポイントの指導と発表等の事後指導を行っている。

4) 栄養総合演習による総合力の強化

「栄養総合演習Ⅲ」、「栄養総合演習Ⅳ」を 1 コマ毎週から 3 コマ毎週とし、卒業するに当たっての管理栄養士教育における 4 年間の知識の再確認と、管理栄養士国家試験対策を行っている。これらの管理栄養士教育の質的保証をするための時間を設けている。

以上のように、開設時からの教育を、さらに本学らしい教育として展開し、社会に貢献できる人材を育てていく。

【添付資料(6)】平成 26 年度時間割案「健康栄養学部管理栄養学科」 参照

(2) 人文学部心理学科

1) 受講人数の適正化

授業の形態や授業目的に応じて、受講人数を適正なものとする。特に、実験・実習の授業では教育効果を高めるために、少人数による授業を行う。「心理学基礎実験」「心理学特殊実験」では、専任教員 2 名による統括の下、1 クラスおおよそ 15 名以下とした 8 つのクラスに各 1 名の兼任講師を配置し、合計 10 名の教員によって運営する。これによって、専門的な知識や技能の習得が効果的になされるように配慮する。また、「調査法Ⅱ」「行動観察法」「面接法」などの実験・実習に関する授業でも、専任教員もしくは兼任講師が 3 名担当し、1 クラス 40 名程度以下となるように配慮する。

【添付資料 11】平成 26 年度時間割案「人文学部心理学科」 参照

2) 授業への動機づけ

複数の担当者による授業では、これらを各授業担当者にも周知徹底する。実験・実習においては、事前の指導を徹底し実験・実習の意義を十分に理解させることによって、課題に取り組む動機づけを高めるように努める。さらに、課題完了後には実験・実習レポートを作成するなど、内容の習得がさらなる広がりや深まりにつながるように配慮する。

3. 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 健康栄養学部管理栄養学科

主要な分野ごとの授業科目及び単位数に応じて、教育経験をはじめ授業科目の内容に相応しい教育研究実績や実務経験を有する教授、准教授、講師及び助教を適切に配置してきた。平成 23 年の新学部設置の際には、一層の教育体制の強化を目的とし、「食品衛生学分野」、「社会福祉分野」、

「日本語表現法」等に新たな教員配置を行い 15 名の専任教員でスタートした。さらに、平成 24 年度には助教を 1 名採用し、現在の教員数は教授 8 名、准教授 5 名、助教 3 名の計 16 名である。

また、この度の収容定員増を計画する上で、実験実習科目 1 クラスの人数を 40 名以下となるよう、当該科目を現行の 2 クラス編成から 3 クラスでの時間割編成を行う予定である。

このことに伴い、円滑な授業運営と質を担保するため、現行の専任教員の担当科目と担当コマ数のバランスを考慮して、5 名の教員（公衆栄養学分野、給食経営管理論分野、スポーツ栄養分野）を補強することとした。この新たな 5 名の専門分野の教員配置については、上記の理由に加え、本学の教育内容の特徴である 4 つの周辺領域科目（「臨床栄養」、「食品開発・分析」、「栄養教諭」、「スポーツ栄養」）における教員配置のバランスと質の保証も考慮している。

平成 26 年度入学生から学年進行とともに 3 クラス編成の実験・実習が順次開始されるが、上記教員補強に加え、完成年度時の時間割及び実験・実習室などの設備面や機器などの使用についても、円滑な運営ができるよう詳細なシミュレーションを行っている。3 クラス編成の運用であっても、同一科目の実験・実習を同時平行で開講することはなく、かつ現行の施設の稼働状況からみても、上記教員組織の補強と現有施設によって、教育の質が担保され、学生に不利益が生じないことを確認している。

(2) 人文学部心理学科

心理学科では、授業科目の内容に相応しい研究業績および教育歴ないし臨床等の経験を有する教授、准教授、講師および助教を適切に配置する。心理学科教員は、知覚・認知心理学をはじめとした基礎的な領域と臨床心理学を中心とした応用的な領域の両者のバランスがとれた陣容であることが特色であり、これによって現代心理学の主要な領域が幅広くカバーされている。それは同時に、観察法、実験法、調査法、心理診断法、面接法、統計法など、心理学における基幹的な方法論に精通した各専門家からなるラインナップであることを意味している。

さらに心理学の近接領域および関連領域の諸学問を専攻する教員が加わり、12 名の専任教員によって学科が発足し、心理学科教育の運営に当たる。教員構成は、教授 8 名、准教授 3 名、助教 1 名、計 12 名の専任教員となる。授業運営に当たっては、専任教員、兼任教員を効果的に組み合わせることによって多岐にわたる授業を充実した内容で適切に実施する。特に、綿密な指導が必要となる実験・実習系授業において適正な履修者数となるよう十分に配慮される。

学生個々の指向性、疑問などに対応するために、各学生を担当するゼミ教員によつて的確な指導が行われるように配慮する。また、学科会議等を中心とするさまざまな機会を設定して、学生に関する情報を教員間で適宜交換し、学生指導の効果を高めていく。したがって、細かな指導はゼミ担当者が行うが、教員間で互いに学生に関する情報交換を密に行いながら、それぞれの学生にとって最善の方途を見出せるように十分な配慮を行う。

4. 施設、設備等の整備計画

1) 校地、運動場

健康栄養学部・人文学部・教育学部を設置している名古屋キャンパスの校地面積は 35,618.00

m²であり、内グラウンドが 17,312.19m²である。この名古屋キャンパスより移動時間にして 30 分の所にある三好キャンパスの校地面積は 163,254.83m²、内グラウンドが 69,793.70m²である。

名古屋キャンパスを校舎とする学生は既存の人文学部人文学科（入学定員 200 人→100 人、3 年次編入学 5 人→3 人、収容定員 810 人→406 人）と今回申請の人文学部心理学科（入学定員 100 人、3 年次編入学 2 人、収容定員 404 人）と教育学部教育学科（入学定員 150 人、3 年次編入学 5 人、収容定員 610 人）と今回定員増予定の健康栄養学部管理栄養学科（入学定員 80 人→120 人、収容定員 480 人）の合計 1,900 人である。

名古屋キャンパスのみでも、大学設置基準に定められる学生 1 人当たり 10m²と比較しても校地敷地面積 35,618m²÷1,900 人=18.75m²となり基準の約 2 倍の校地を有している。

また、校舎面積も名古屋キャンパスのみで 23,639.23m²で基準面積を十分に有している。名古屋キャンパスにおいては学生寮、ソフトボールグラウンド、テニスコート、シャワールーム、トレーニングルーム、クラブハウス等を有している。

さらに、名古屋キャンパスに、平成 25 年度竣工に向けて、延べ床面積 1,516.28 m²の体育館を建築中である。この体育館は、スポーツ関連科目の充実と共に健康栄養学部のスポーツ栄養領域科目における教育の充実も目指して建築される。

三好キャンパスの広大な校地には野球、サッカー、ラグビー、陸上競技等の公式試合に対応できる本格的な施設を有している。また、体育館、スポーツ実験実習棟を有し、温水プール、トレーニングジム、シャワールーム、ロッカールーム、体育系のクラブ室、多目的利用の小体育室を備えたクラブハウスを設置している。

このように現状において教育に十分な校地を有しているため、新たな整備計画はない。

2) 校舎等施設

校舎等の施設については、既設学部、学科の開設時やその後の環境整備において教育に必要な実験・実習室を中心に整備されている。健康栄養学部として主な施設は、臨床栄養実習室・栄養教育実習室・給食経営管理実習室・調理実習室・生理学実験室・理化学実験室・精密機器室・共同実験室・動物実験室・飼育室等である。また、人文学部心理学科として主な施設は、心理実験室・行動観察室・プレイルーム等である。そのほかは既設人文学部人文学科・教育学部と共用にて使用する講義室、演習室、実験・実習室などが整備されている。現行の授業運用における施設使用の稼働状況からみて、収容定員の変更後も授業運用に支障をきたさないことを確認しており、十分な教育施設及び設備が整っていると判断している。

3) 図書等の資料及び図書館

本学部を設置する名古屋キャンパスの図書館面積は約 2,298m²、閲覧座席数 200 席、蔵書冊数は和書約 19 万冊、洋書約 2.5 万冊が備えられている。

また、三好キャンパスの図書館面積は約 1,242m²、閲覧座席数 214 席であり、蔵書冊数は和書約 6 万冊、洋書約 1 万冊が備えられている。

健康栄養学部関連資料としては、図書は和書約 2.4 万冊、洋書約 1,900 冊、雑誌は和雑誌 42

誌、洋雑誌 31 誌、また視聴覚資料 400 点を所蔵している。人文学部心理学科関連資料としては、図書は和書約 6,000 冊、洋書約 500 冊、雑誌は和雑誌 17 誌、洋雑誌 10 誌、また視聴覚資料 218 点を所蔵している。ネットワーク情報資源については、MEDLINE With Full Text、ScienceDirect、JDream II、ルーラル電子図書館、メディカルオンライン等、健康栄養学部管理栄養学科及び人文学部心理学科の学生や教員の関心が深いデータベースを契約しており、その他に GeNii 学術コンテンツポータル、MAGAZINEPLUS、WHOPLUS、日経テレコン 21、日経 BP 記事検索サービス、ヨミダス歴史館、中日新聞・東京新聞記事検索データベース、聞蔵Ⅱビジュアル、大宅壮一文庫雑誌記事索引、雑誌記事索引集成データベース、PsycINFO、SPORTDiscus、ジャパンナレッジ、ブリタニカ・オンライン、第一法規総合データベース、理科年表等の全学共通で利用できるデータベースがある。また、1 次情報入手のためのサポートとしてリンクリゾルバも導入している。

他大学との図書館相互協力については、国立情報学研究所の NACSIS-ILL を中心にサービスを行っており、これによって、本学部の教育・研究にかかわる図書等の資料としては、必要なものは整備されていると考えられるが、さらに、各年度の図書等資料費予算を計画的に執行することで、図書や雑誌等の更新・充実を図ることとする。

5. 資格取得

(1) 健康栄養学部管理栄養学科

1) 取得できる資格

【国家資格】	【資格取得条件】
管理栄養士（受験資格）	修了と同時に取得可能
栄養士	修了と同時に取得可能
食品衛生管理者	修了要件に加えて資格課程を履修する
食品衛生監視員	修了要件に加えて資格課程を履修する

【教員免許状】	【資格取得条件】
栄養教諭一種免許状	修了要件に加えて教職課程を履修する

【民間資格】	【資格取得条件】
食品衛生管理者、食品衛生監視員	修了要件に加えて資格課程を履修する
NR・サプリメントアドバイザー（受験資格）	修了要件に加えて資格課程を履修する
フードスペシャリスト（受験資格）	修了要件に加えて資格課程を履修する

2) 実習の具体的計画

取得可能な資格のうち、栄養士、管理栄養士、栄養教諭については学外実習が必要であり、管理栄養士、栄養士の実習実施計画は【添付資料(7)】・【添付資料(8)】のとおりである。

【添付資料(7)】 臨地実習（給食経営管理）の実習計画 参照

【添付資料(8)】 臨地実習（臨床栄養）の実習計画 参照

(2) 人文学部心理学科

現在、心理学関連の民間資格として普及している認定心理士及び社会調査士の資格が取得可能である。また、人文学部内の学科であることを活かし、図書館司書及び学芸員の資格取得を可能とした。これら資格の概要は、以下の通りである。

1) 取得できる資格

【国家資格】	【資格取得条件】
図書館司書	卒業要件単位に含まれる科目のほか、免許・資格関連科目を履修する
学芸員	

【添付資料 12】 学芸員・司書を目標とする履修モデル参照

【民間資格】	【資格取得条件】
認定心理士	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない
社会調査士	

【添付資料 13】 認定心理士を目標とする開講科目一覧参照

2) 実習の具体的計画

取得可能な資格のうち、学芸員については学外実習が必要である。実習先一覧は【添付資料 9】のとおりである。

博物館実習は、事前指導・館務実習・事後指導の3つの実習にわかれ、次の通りである。

事前指導……春学期開講 講義、美術品等取り扱い実習、ビデオ鑑賞。

館務実習……美術館・博物館等の現場で実際に学芸員の指導を受け、実習を行う。

事後指導……秋学期開講 講義、館務実習の報告書作成等。

また、「館務実習」の一環として、学外実地見学を東京で実施している。

実施日程： 2月中旬の土～日曜日（1泊2日）

【添付資料 14】 博物館実習施設一覧（平成 15 年度～平成 24 年度） 参照

【添付資料(1)】医療・福祉関係【管理栄養士・栄養士】

企業・団体名	所在地	入社卒年					入社 人数 合計
		2012	2011	2010	2009	2008	
独立行政法人国立病院機構 東海北陸ブロック(金沢医療センター)	石川県金沢市		○				1
独立行政法人国立病院機構 関東信越ブロック(宇都宮病院)	栃木県宇都宮市	○					1
独立行政法人国立長寿医療研究センター	愛知県大府市	○	○	○			3
鳥取大学医学部附属病院	鳥取県米子市		○				1
愛知県厚生農業協同組合連合会 海南病院	愛知県弥富市	○					1
医療法人藤枝会	愛知県海部郡					○	1
医療法人豊田山之手会 高岡介護老人保健施設	愛知県豊田市					○	1
医療法人社団主体会 小山田記念温泉病院	三重県四日市市	○			○		2
医療法人社団聖泉会 聖十字病院	岐阜県土岐市	○					1
医療法人双寿会	愛知県小牧伊			○			1
医療法人如水会	三重県鈴鹿市	○					1
医療法人富田浜病院	三重県四日市市		○	○		○	4
医療法人豊岡会グループ	愛知県豊橋市				○		1
医療法人有心会 愛知クリニック	愛知県豊橋市	○					1
医療法人来光会	愛知県一宮市	○					1
医療法人研成会 諏訪湖畔病院	長野県岡谷市		○				1
三九朗病院	愛知県豊田市		○				1
長野県厚生農業協同組合連合会 篠ノ井総合病院	長野県篠ノ井市		○				1
永井病院	三重県津市					○	1
可世木病院	愛知県名古屋				○		1
社会福祉法人青山里会	三重県四日市市					○	1
社会福祉法人多治見清涼会清涼苑	岐阜県多治見市				○		1
社会福祉法人あぐりす実の会	愛知県知多郡			○			1
社会福祉法人ネットワークみやび 特別養護老人ホームもりおか	愛知県大府市	○					1
社会福祉法人ひまわり福祉会	愛媛県出雲市				○		1
社会福祉法人ほのぼの福祉会 ほのぼの園デイサービスセンター	愛知県知多市	○					1
社会福祉法人よつ葉の会 よつ葉の家	愛知県名古屋市			○	○		2
社会福祉法人愛知県厚生事業団 愛厚ホーム佐屋苑	愛知県愛西市	○					1
社会福祉法人愛知慈恵会 一宮市萩の里特別養護老人ホーム	愛知県一宮市				○		1
社会福祉法人聖隷福祉事業団	静岡県浜松市				○		1
社会福祉法人博愛会	長野県長野市			○			1
社会福祉法人飯田市社会福祉協議会	長野県飯田市	○					1
社会福祉法人碧晴会 特別養護老人ホーム川口結いの家	愛知県碧南市	○					1
社会福祉法人鈴鹿聖十字会	三重県三重郡	○		○			2
社会福祉法人新瑞福祉会	愛知県名古屋市		○				1
社会福祉法人陶都会	岐阜県土岐市		○				1
社会福祉法人名古屋ライトハウス	愛知県名古屋市		○				1
社会福祉法人千寿会(千寿の里)	岐阜県瑞浪市		○				1
なも介護サポート有限会社 津島ケアセンターそよ風	愛知県津島市			○			1
特定非営利活動法人 ときわ会 藍ちゃんの家	三重県伊勢市	○					1
ヤナセメディケアグループ	三重県津市	○					1
有限会社ナチュラル・ライフ	岐阜県中津川市	○					1

【添付資料(1)】委託給食関係【管理栄養士・栄養士】

企業・団体名	所在地	入社卒年					入社 人数 合計
		2012	2011	2010	2009	2008	
エームサービス株式会社	東京都港区					○	1
オーケーズデリカ株式会社	三重県桑名市	○					1
株式会社医療給食	愛知県名古屋市		○			○	3
株式会社グリーンハウス	東京都新宿区	○	○	○	○	○	10
株式会社マルタマフーズ	大阪府大阪市	○	○	○	○		7
サンフード株式会社	愛知県名古屋市				○	○	2
シダックス株式会社	東京都渋谷区		○			○	2
株式会社アスモ	大阪府大阪市	○					2
セントラルキッチンかすがい	愛知県春日井市		○				1
トヨタ生活協同組合	愛知県豊田市				○	○	1
日本ゼネラルフード株式会社	愛知県名古屋市	○	○		○	○	23
メーキュー株式会社	愛知県名古屋市	○	○	○		○	7
株式会社LEOC	東京都千代田区	○				○	5
株式会社アルス	東京都大田区		○				1
株式会社トモ	三重県四日市市		○		○		2
株式会社ナリコマエンタープライズ	大阪府茨城市	○	○			○	3
株式会社ニッコトラスト	東京都千代田区	○	○		○		3
株式会社ミツオ	愛知県名古屋市	○					1
株式会社レパスト	東京都中央区			○			1
株式会社魚国総本社	大阪府大阪市		○		○	○	6
株式会社三重給食センター	三重県四日市市	○					1
株式会社津山商店	新潟県南魚沼市		○				1
新三商事株式会社	愛知県安城市					○	1
西洋フード・コンパスグループ株式会社	東京都豊島区	○					1
日清医療食品株式会社	東京都千代田区	○	○	○	○	○	12
富士産業株式会社	東京都港区	○	○	○	○	○	13

【添付資料(1)】食品・飲食関係【管理栄養士・栄養士or資格を活かした職種】

企業・団体名	所在地	入社卒年					入社 人数 合計
		2012	2011	2010	2009	2008	
アンプレシオン	愛知県豊橋市				○		1
カネ美食品株式会社	愛知県名古屋市				○		1
キューピー	愛知県豊田市		○				1
スギ製菓株式会社	愛知県碧南市			○	○		2
タクマ食品	愛知県春日井市		○				1
チタカ・インターナショナル・フーズ株式会社	愛知県北名古屋市				○		1
デイリーはやしや	長野県松本市		○				1
フジパングループ本社株式会社	愛知県名古屋市				○		1
丸信製粉株式会社	愛知県海部郡		○				1
ヤマダイ食品株式会社	三重県四日市市				○	○	2
ヨシケイ開発株式会社	静岡県静岡市					○	1
井村屋製菓株式会社	三重県津市				○		1
岡本食品株式会社	愛知県名古屋市	○	○				3
株式会社 CLUB ANTIQUE	愛知県知多郡			○			1
株式会社カネスエ	愛知県一宮市				○		1
株式会社小杉食品	三重県桑名市		○				1
株式会社サンデリカ	東京都千代田区	○	○	○			3
株式会社ジャパンフレッシュ	愛知県名古屋市	○					1
株式会社デリカサイト	岐阜県大垣市			○			2
株式会社ハナノキ	愛知県北名古屋市				○		1
株式会社ファンデリー	東京都北区			○			1
株式会社ミノヤランチサービス	愛知県尾張旭市				○		1
株式会社ヤマミ醸造	愛知県半田市				○		1
株式会社柿安本店	三重県桑名市			○			1
株式会社松風屋	愛知県名古屋市			○			1
株式会社新杵堂	岐阜県中津川市		○				1
株式会社知久	静岡県浜松市	○		○		○	3
株式会社浜乙女	愛知県名古屋市			○			1
株式会社名給	愛知県名古屋市			○			1
丸信製粉株式会社	愛知県海部郡			○			1
共和食品グループ	愛知県名古屋市		○				1
神宮食品株式会社	三重県桑名市				○		1
味の素ファルマ株式会社	東京都中央区				○		1
名古屋製酪株式会社	愛知県名古屋市		○	○	○	○	8
有限会社 本郷鶏肉	長野県松本市			○			1
株式会社渥美フーズ	愛知県田原市	○					1
株式会社松浦商店	愛知県名古屋市	○					1
O'Sフードサービス株式会社	愛知県一宮市			○			1
株式会社ジー・ディー・フードサービス	愛知県岡崎市			○			1

【添付資料(1)】教育〈学校・幼稚園・保育園等〉関係【管理栄養士・栄養士or資格を活かした職種】

企業・団体名	栄養 教員	所在地	入社卒年					入社 人数 合計
			2012	2011	2010	2009	2008	
名古屋市立光城小学校		愛知県名古屋市			○			1
瀬戸市立原山小学校	*	愛知県瀬戸市			○			1
瀬戸市立水南小学校	*	愛知県瀬戸市				○		1
愛知県公立学校教員(愛知県知多教育事業所)	*	愛知県知多市				○		1
三重県教育委員会	*	三重県					○	1
大阪府教育委員会	*	大阪府		○				1
山梨県教育委員会	*	山梨県		○				1
可児市立中部中学校		岐阜県可児市				○		1
南部学校給食共同調理場		三重県					○	1
沖縄県立開邦高等学校		沖縄県			○			1
犬山市立池野小学校[常勤講師]	*	愛知県犬山市		○				1
美濃市学校給食センター[常勤講師]	*	岐阜県美濃市		○				1
京都市教育委員会[講師]	*	京都府	○					1
東海学園大学		愛知県名古屋市		○			○	2
学校法人古川学園		三重県四日市市			○			1
学校法人明照学園 ゼンヌ幼稚園		愛知県名古屋市				○		1
社会福祉法人 あすなろ福祉会 いぶき保育園		愛知県名古屋市				○		1
社会福祉法人伊賀良保育園		長野県飯田市	○					1
社会福祉法人浜松児童福祉園		静岡県浜松市	○					1
社会福祉法人有松幼睦園 きよすみ保育園		愛知県名古屋市	○		○			2
中村保育園		愛知県名古屋市					○	1
萩野保育園		愛知県名古屋市		○				1
JPホールディングス		愛知県名古屋市	○	○			○	4

【添付資料(1)】医薬品・公務員・その他【管理栄養士・栄養士or資格を活かした職種】

企業・団体名	所在地	入社卒年					入社 人数 合計
		2012	2011	2010	2009	2008	
ゲンキー株式会社	福井県坂井市				○		1
株式会社カワチ薬品	栃木県小山市			○			1
株式会社サンドラッグ東海	愛知県名古屋市			○			1
株式会社スギヤマ薬品	愛知県名古屋市			○	○	○	3
株式会社スギ薬局(スギ薬局グループ)	愛知県安城市	○		○	○		3
株式会社スズケン	愛知県名古屋市		○	○			2
株式会社ユタカファーマシー	岐阜県大垣市					○	1
株式会社杏林堂薬局	静岡県浜松市	○		○	○		14
株式会社高田薬局	静岡県静岡市					○	1
三生医薬株式会社	静岡県富士宮市			○			1
中部薬品株式会社	岐阜県多治見市			○	○		3
中北薬品株式会社	愛知県名古屋市	○	○	○			5
静岡市役所(栄養士職)	静岡県静岡市		○				1
郡上市役所(栄養士職)	岐阜県郡上市					○	1
株式会社アクトス	岐阜県多治見市				○	○	3
財団法人愛知県健康づくり振興事業団	愛知県知多郡				○		1
株式会社ABC Cooking Studio	東京都千代田区	○	○		○		4
株式会社ハンナプロジェクト	愛知県名古屋市	○					1

【添付資料(2)】

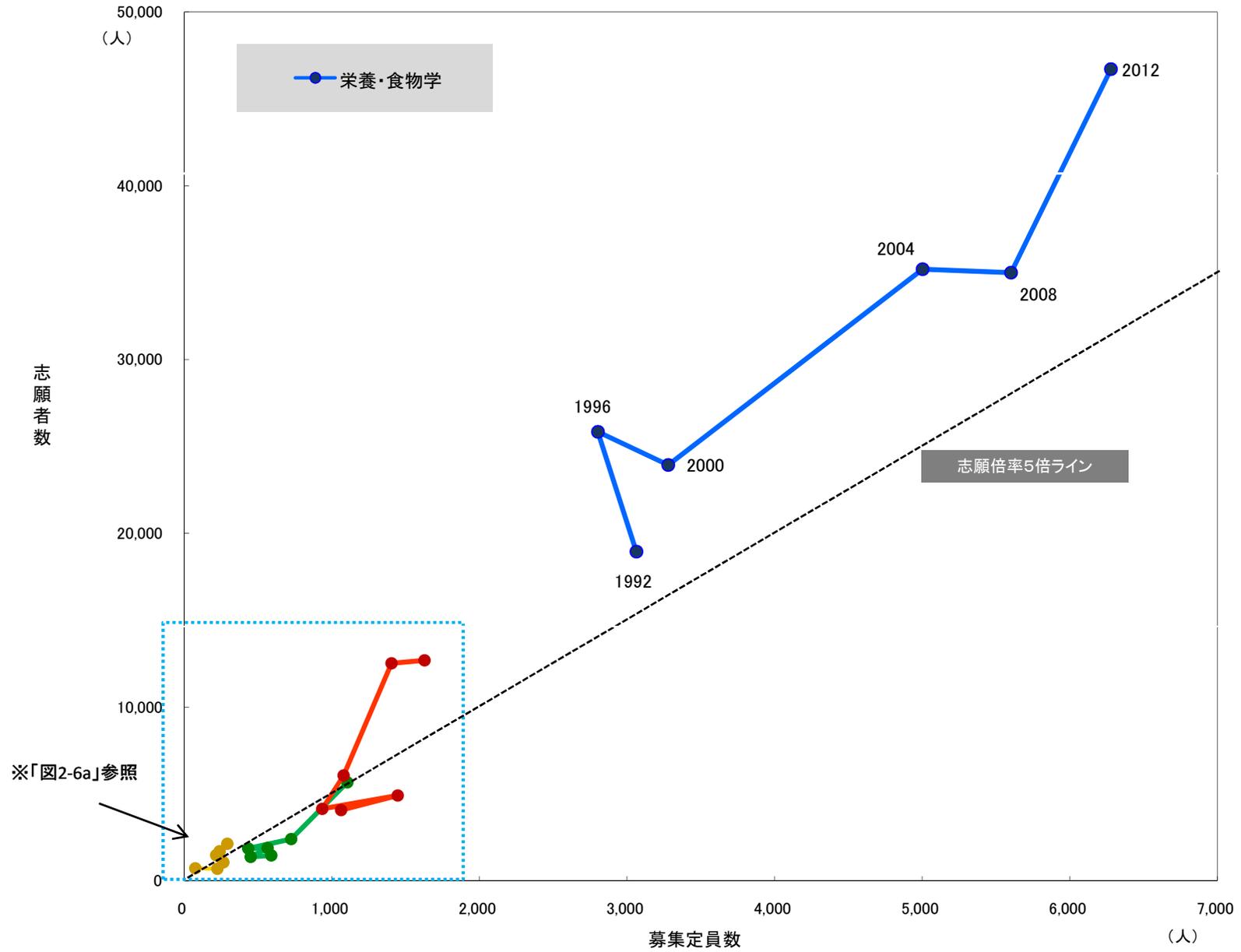
募集定員

年	家政・生活	栄養・食物学
1992		3,064
1996		2,803
2000		3,279
2004		5,004
2008		5,603
2012		6,280

志願者(合計)

年	家政・生活	栄養・食物学
1992	18,940	
1996	25,831	
2000	23,921	
2004	35,200	
2008	34,990	
2012	46,699	

図2-6 家政・生活系統の動向
 ■ 志願者数×募集定員数 推移(1992、1996、2000、2004、2008、2012)



【添付資料(3)】

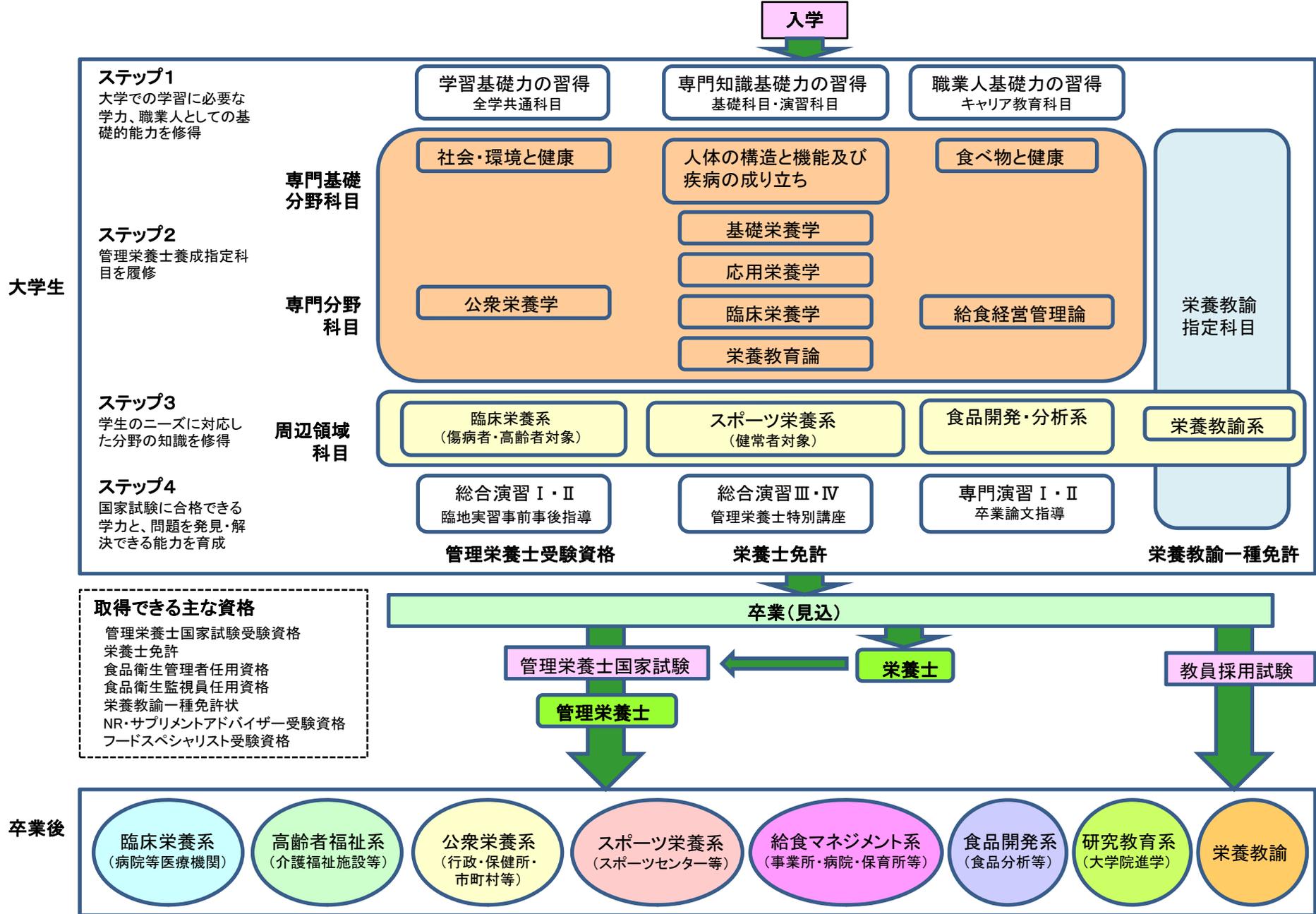
系統別詳細分析 家政系【管理栄養】

大学名	学部	学科	コース・専攻	志願者数					対前年増減		偏差値 13卒
				2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	数(人)	率(%)	
愛知学院大学	心身科学部	健康栄養学科		253	306	318	256	431	175	68.4	45.0
金城学院大学	生活環境学部	食環境栄養学科		437	350	505	391	485	94	24.0	55.0
椋山女学園大学	生活科学部	管理栄養学科		860	663	714	870	1,067	197	22.6	55.0
中部大学	応用生物学部	食品栄養科学科	管理栄養科学専攻	-	144	215	145	233	88	60.7	47.5
東海学園大学	健康栄養学部	管理栄養学科		-	-	356	240	634	394	164.2	45.0
東海学園大学	人間健康学部	管理栄養学科		294	266	-	-	-	-	-	-
名古屋学芸大学	管理栄養学部	管理栄養学科		493	812	1,044	1,427	1,722	295	20.7	55.0
名古屋女子大学	家政学部	食物栄養学科		536	598	837	991	890	▲101	▲10.2	52.5
合計				2,873	3,139	3,989	4,320	5,462	1,142	26.4	

出典:(株)リクルートマーケティングパートナーズ「2013年センター・一般入試前期入試の傾向と分析—学科系統別志願動向」

健康栄養学部管理栄養学科における教育概念図

【添付資料(4)】 高度な専門性を有した医療スタッフの一員として、また、健常者の生涯にわたる健康づくりの推進者として活躍できる人材を育成する。



【添付資料(5)】

健康栄養学部管理栄養学科 履修プログラム

免許・資格	栄養士免許証、管理栄養士免許（受験資格証明書）			
	栄養教諭一種免許、NR・サプリメントアドバイザー（受験資格） 食品衛生管理者（任用資格）、食品衛生監視員（任用資格）、フード・スペシャリスト（受験資格）			
学生のニーズに合わせた履修プログラム	臨床栄養	スポーツ栄養	食品開発・分析	栄養教諭
	臨床栄養・高齢者福祉・地域の栄養管理	スポーツ栄養・公衆栄養	食品栄養機能・食品衛生管理・食環境コーディネーター・フードサービス	栄養教諭
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 傷病者の栄養管理 ・ 高齢者の栄養管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康者の栄養管理 ・ アスリートの栄養管理 ・ 地域住民の栄養管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品製造、食品開発 ・ 食品分析 ・ 衛生管理、 ・ 食環境のコーディネーター 	
関連資格	<ul style="list-style-type: none"> ・ NR・サプリメントアドバイザー（受験資格） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康運動指導士 ・ 健康運動実践指導者（免許取得のためのサポート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品衛生管理者（任用資格） ・ 食品衛生監視員（任用資格） ・ フード・スペシャリスト（受験資格） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養教諭
卒業後の進路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理栄養士 ・ 高齢者福祉・介護施設の管理栄養士 ・ 製薬会社、薬局業界のMR 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園・保育園の管理栄養士 ・ スポーツセンター等の管理栄養士 ・ スポーツチームや選手の管理栄養士 ・ 保健所・保健センター（公務員）の管理栄養士 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品メーカー等での食品開発、品質管理 ・ 食品製造、流通における食品管理 ・ 事業所などの給食業務 ・ 外食産業のメニュー開発 ・ 食品業界のフード・スペシャリスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校・中学校の栄養教諭
専任教員の配置	寺嶋・兼平・長谷川・ 新採A・新採D （兼務：太田・中出）	山本・太田・端井・松島・新採C （兼務：西堀）	西田・白石・武山・平野・新採B	西堀・中出・長幡 （兼務：山本）

【添付資料(6)】平成26年度 時間割 春学期 健康栄養学部管理栄養学科

	1年生			2年生			3年生			4年生			
	Aクラス	Bクラス	Cクラス	Aクラス	Bクラス	Cクラス	Aクラス	Bクラス	Cクラス	Aクラス	Bクラス	Cクラス	
月	1			給食計画論 ＜長谷川順子＞	解剖生理学Ⅱ ＜太田久彦＞	食品衛生学 ＜平野義晃＞	＜全学共通科目＞			社会・健康福祉論 ＜宮本益治＞	栄養情報演習 ＜長幡友実＞	解剖生理学実習 ＜太田久彦＞	
	2	スポーツ＜全学共通科目＞			解剖生理学Ⅱ ＜太田久彦＞	食品衛生学 ＜平野義晃＞	応用栄養学総論 ＜山本由喜子＞	食品機能論＜周辺領域科目＞ ＜村瀬誠＞			栄養情報演習 ＜長幡友実＞	社会・健康福祉論 ＜宮本益治＞	解剖生理学実習 ＜太田久彦＞
	3	基礎演習Ⅰ＜演習科目＞ ＜太田・武山・中出・端井しげみ・新任＞			＜全学共通科目＞			スポーツ栄養学＜周辺領域科目＞ ＜松島佳子＞			食品開発論＜周辺領域科目＞ ＜上野隆二＞		
	4	健康科学概論＜学部必須科目＞ ＜武山英麿＞			＜全学共通科目＞ 栄養科学演習Ⅰ＜演習科目＞ ＜中出・西田・松島＞			食品微生物学＜免許・資格関連科目＞ ＜栗冠真紀子＞			地域保健活動論＜周辺領域科目＞ ＜長幡友実＞		
	5	基礎化学Ⅰ＜免許・資格関連科目＞			病理学 ＜寺島正治＞	給食計画論 ＜長谷川順子＞	公衆栄養学 ＜端井しげみ＞	管理栄養士特講Ⅰ＜免許・資格関連科目＞ ＜太田・白石・武山・西田・平野・松島・山本＞			学校栄養教育実習指導＜教職科目＞		
火	1	食品学総論 ＜西田淑男＞	生化学Ⅰ ＜白石則之＞	調理学実習Ⅰ ＜西堀すき江＞	食品学実験Ⅱ ＜青木恭彦＞	給食マネジメント実習Ⅰ ＜福岡 恩＞	臨床栄養学実習Ⅰ ＜兼平奈奈＞	栄養治療学 ＜兼平奈奈＞	栄養教育実習 ＜東山幸江＞	専門演習Ⅱ＜演習科目＞ ＜太田・武山・寺嶋・中出・長幡・松島・山本＞			
	2	生化学Ⅰ ＜白石則之＞	食品学総論 ＜西田淑男＞	調理学実習Ⅰ ＜西堀すき江＞	食品学実験Ⅱ ＜青木恭彦＞	給食マネジメント実習Ⅰ ＜福岡 恩＞	臨床栄養学実習Ⅰ ＜兼平奈奈＞	臨床医薬概論 ＜寺嶋正治＞	栄養教育実習 ＜東山幸江＞	栄養治療学 ＜兼平奈奈＞	栄養総合演習Ⅲ＜演習科目＞ ＜太田・武山・平野・松島・山本・端井しげみ＞		
	3	英会話Ⅰ、英会話Ⅰ、総合英語Ⅰ＜全学共通科目＞			基礎栄養学実習 ＜松島佳子＞	調理学実験 ＜阿知波弓子＞	食品学実験Ⅱ ＜青木恭彦＞			応用栄養学実習Ⅱ ＜伊藤正江＞	専門演習Ⅱ＜演習科目＞ ＜兼平・白石・西田・西堀・長谷川＞		
	4				基礎栄養学実習 ＜松島佳子＞	調理学実験 ＜阿知波弓子＞	食品学実験Ⅱ ＜青木恭彦＞			応用栄養学実習Ⅱ ＜伊藤正江＞	食糧経済＜免許・資格関連科目＞ ＜稲浪智士＞		
	5	教育原理＜教職科目＞			英会話Ⅰ（再）＜全学共通科目＞								
水	1	情報リテラシーⅠ ＜全学共通科目＞	調理学実習Ⅰ ＜西堀すき江＞	生化学Ⅰ ＜白石則之＞	給食マネジメント実習Ⅰ ＜福岡 恩＞	食品学各論 ＜平野義晃＞	基礎栄養学実習 ＜松島佳子＞	栄養教育実習 ＜中出美代＞	応用栄養学実習Ⅱ ＜山本由喜子＞＜＞	解剖生理学実習 ＜太田久彦＞	栄養情報演習 ＜長幡友実＞		
	2	日本語表現法A ＜全学共通科目＞	調理学実習Ⅰ ＜西堀すき江＞	食品学総論 ＜西田淑男＞	給食マネジメント実習Ⅰ ＜福岡 恩＞	病理学 ＜寺島正治＞	基礎栄養学実習 ＜松島佳子＞	栄養教育実習 ＜中出美代＞	応用栄養学実習Ⅱ ＜山本由喜子＞	栄養カウンセリング論 ＜東山幸恵＞	解剖生理学実習 ＜太田久彦＞	社会・健康福祉論 ＜宮本益治＞	
	3	共生人間論Ⅰ＜全学共通科目＞			食品学各論 ＜平野義晃＞	食品学実験Ⅱ ＜青木義彦＞	解剖生理学Ⅱ ＜太田久彦＞	応用栄養学実習Ⅱ ＜山本由喜子＞	臨床医薬概論 ＜寺嶋正治＞	栄養教育実習 ＜中出美代＞	解剖生理学実習 ＜太田久彦＞		
	4				公衆栄養学 ＜端井しげみ＞	食品学実験Ⅱ ＜青木義彦＞	食品学各論 ＜平野義晃＞	応用栄養学実習Ⅱ ＜山本由喜子＞	中高年栄養学 ＜小澤秀子＞	栄養教育実習 ＜中出美代＞	解剖生理学実習 ＜太田久彦＞		
	5				キャリアサポートⅠ＜全学教育科目＞			食育指導論Ⅱ＜周辺領域科目＞ ＜上原正子＞					
木	1	調理学実習Ⅰ ＜小嶋舞＞	情報リテラシーⅠ ＜全学共通科目＞	日本語表現法A ＜全学共通科目＞	臨床栄養学実習Ⅰ ＜兼平奈奈＞	応用栄養学総論 ＜山本由喜子＞	給食マネジメント実習Ⅰ ＜福岡 恩＞	健康食品学＜周辺領域科目＞ ＜武山英麿＞			栄養総合演習Ⅲ＜演習科目＞ ＜太田・白石・西田・平野・松島・端井しげみ＞		
	2	調理学実習Ⅰ ＜小嶋舞＞	日本語表現法A ＜全学共通科目＞	情報リテラシーⅠ ＜全学共通科目＞	臨床栄養学実習Ⅰ ＜兼平奈奈＞	臨床栄養学Ⅲ （高齢者・母子） ＜山口節子＞	給食マネジメント実習Ⅰ ＜福岡 恩＞	専門演習Ⅰ＜演習科目＞ ＜寺嶋・中出・長幡・西堀＞			日本文化（華道）＜全学共通科目＞		
	3	医学一般＜周辺領域科目＞ ＜太田久彦＞			応用栄養学総論 ＜山本由喜子＞	臨床栄養学実習Ⅰ ＜兼平奈奈＞	臨床栄養学Ⅲ （高齢者・母子） ＜山口節子＞	栄養総合演習Ⅰ＜演習科目＞ ＜兼平・寺嶋・中出・長幡・西堀・長谷川＞					
	4	英会話Ⅰ、英会話Ⅰ、総合英語Ⅰ＜全学共通科目＞			臨床栄養学Ⅲ （高齢者・母子） ＜山口節子＞	臨床栄養学実習Ⅰ ＜兼平奈奈＞	給食計画論 ＜長谷川順子＞	栄養総合演習Ⅰ＜演習科目＞ ＜兼平・寺嶋・中出・長幡・西堀・長谷川＞					
	5				道徳教育指導論＜教職科目＞			フードスペシャリスト論＜免許・資格関連科目＞					
金	1	＜全学共通科目＞			食品衛生学 ＜平野義晃＞	微生物学 ＜内記良一＞	調理学実験 ＜阿知波弓子＞	キャリアサポートⅢ＜全学教育科目＞			栄養総合演習Ⅲ＜演習科目＞ ＜太田・白石・武山・西田・松島・山本＞		
	2	＜全学共通科目＞			微生物学 ＜内記良一＞	公衆栄養学 ＜端井しげみ＞	調理学実験 ＜阿知波弓子＞	栄養カウンセリング論 ＜東山幸恵＞	栄養治療学 ＜兼平奈奈＞	中高年栄養学 ＜小澤秀子＞	憲法と基本権＜全学共通科目＞		
	3	キャリアデザインⅠ＜全学共通科目＞			調理学実験 ＜阿知波弓子＞	基礎栄養学実習 ＜稲荷妙子＞	微生物学 ＜内記良一＞	中高年栄養学 ＜小澤秀子＞	栄養カウンセリング論 ＜東山幸恵＞	臨床医薬概論 ＜寺嶋正治＞	食品鑑別演習＜免許・資格関連科目＞		
	4				調理学実験 ＜阿知波弓子＞	基礎栄養学実習 ＜稲荷妙子＞	病理学 ＜寺島正治＞	専門演習Ⅰ＜演習科目＞ ＜太田・兼平・白石・武山・西田・長谷川・松島・山本＞			畜産品製造学＜免許・資格関連科目＞		
	5	教職概論＜教職科目＞			教育方法技術論＜教職科目＞								

【添付資料(6)】平成26年度 時間割 秋学期 健康栄養学部管理栄養学科

	1年生			2年生			3年生			4年生		
	Aクラス	Bクラス	Cクラス	Aクラス	Bクラス	Cクラス	Aクラス	Bクラス	Cクラス	Aクラス	Bクラス	Cクラス
月	1	食品学実験Ⅰ 〈西田淑男〉	調理学実習Ⅱ 〈小島舞〉	生化学実験 〈奥村克純〉	栄養科学演習Ⅱ〈演習科目〉 〈平野・松島・端井しげみ〉			〈全学共通科目〉				
	2	食品学実験Ⅰ 〈西田淑男〉	調理学実習Ⅱ 〈小島舞〉	生化学実験 〈奥村克純〉	環境健康科学 〈武山英麿〉	給食経営管理論 〈長谷川順子〉	栄養教育各論 〈中出美代〉	専門演習Ⅰ〈演習科目〉 〈兼平・白石・寺嶋・中出・端井しげみ〉				
	3	生化学実験 〈奥村克純〉	解剖生理学Ⅰ 〈内記良一〉	臨床栄養学Ⅱ (病態・栄養管理) 〈兼平奈奈〉	栄養教育各論 〈中出美代〉	食品衛生学実験 〈平野義晃〉	応用栄養学実習Ⅰ 〈伊藤正江〉	フードコーディネーター論〈免許・資格関連科目〉				
	4	生化学実験 〈奥村克純〉	基礎栄養学 〈稲荷妙子〉	解剖生理学Ⅰ 〈内記良一〉	母子栄養学 〈山本由喜子〉	食品衛生学実験 〈平野義晃〉	応用栄養学実習Ⅰ 〈伊藤正江〉	運動生理学〈周辺領域科目〉 〈森悟〉			専門演習Ⅱ〈演習科目〉 〈兼平・白石・寺嶋・西田・長谷川〉	
	5	解剖生理学Ⅰ 〈内記良一〉	生化学Ⅱ 〈白石則之〉〈※〉	基礎栄養学 〈稲荷妙子〉	教育相談〈教職科目〉			生徒指導論〈教職科目〉				
火	1	調理学実習Ⅱ 〈小島舞〉	生化学実験 〈奥村克純〉	食品学実験Ⅰ 〈西田淑男〉	給食マネジメント実習Ⅱ 〈長谷川順子〉	栄養教育各論 〈中出美代〉	給食経営管理論 〈長谷川順子〉	食品工学〈免許・資格関連科目〉			栄養総合演習Ⅳ〈演習科目〉 〈太田・白石・平野・松島・山本・端井しげみ〉	
	2	調理学実習Ⅱ 〈小島舞〉	生化学実験 〈奥村克純〉	食品学実験Ⅰ 〈西田淑男〉	給食マネジメント実習Ⅱ 〈長谷川順子〉	母子栄養学 〈山本由喜子〉	環境健康科学 〈武山英麿〉	応用微生物学〈免許・資格関連科目〉			農産品製造学〈免許・資格関連科目〉	
	3	英会話Ⅱ、英会話Ⅱ、総合英語Ⅱ〈全学共通科目〉			情報処理統計演習〈周辺領域科目〉 〈山田泰行〉			栄養総合演習Ⅱ〈演習科目〉 〈兼平・寺嶋・中出・長幡・西堀・長谷川〉				
	4	臨床栄養学Ⅱ (病態・栄養管理) 〈兼平奈奈〉	日本語表現法B 〈全学共通科目〉	栄養教育原論 〈中出美代〉	〈全学共通科目〉			専門演習Ⅰ〈演習科目〉 〈長幡・長谷川〉				
	5	教育制度論〈教職科目〉			特別活動論〈教職科目〉			栄養総合演習Ⅱ〈演習科目〉 〈兼平・寺嶋・中出・長幡・西堀・長谷川〉				
水	1	情報リテラシーⅡ 〈全学共通科目〉	臨床栄養学Ⅰ(疾病・医療) 〈寺嶋正治〉	日本語表現法B 〈全学共通科目〉	臨床検査実験 〈白石則之〉	給食マネジメント実習Ⅱ 〈長谷川順子〉	食品衛生学実験 〈平野義晃〉	栄養カウンセリング実習 〈東山幸恵〉	公衆衛生学 〈武山英麿〉	公衆栄養学実習 〈長幡友美、端井しげみ〉		
	2	日本語表現法B 〈全学共通科目〉	調理学 〈西堀すき江〉	情報リテラシーⅡ 〈全学共通科目〉	臨床検査実験 〈白石則之〉〈※〉	給食マネジメント実習Ⅱ 〈長谷川順子〉	食品衛生学実験 〈平野義晃〉	栄養カウンセリング実習 〈東山幸恵〉	病理学演習 〈寺嶋正治〉	公衆栄養学実習 〈長幡友美、端井しげみ〉	専門演習Ⅱ〈演習科目〉 〈太田・武山・中出・松島・山本〉	
	3	生化学Ⅱ 〈白石則之〉	情報リテラシーⅡ 〈全学共通科目〉	調理学 〈西堀すき江〉	給食経営管理論 〈長谷川順子〉〈※〉	環境健康科学 〈武山英麿〉	母子栄養学 〈伊藤正江〉	公衆栄養学実習 〈長幡友美、端井しげみ〉	栄養カウンセリング実習 〈東山幸恵〉	病理学演習 〈寺嶋正治〉		
	4	スポーツ〈全学共通科目〉			〈全学共通科目〉			公衆栄養学実習 〈長幡友美、端井しげみ〉	栄養カウンセリング実習 〈東山幸恵〉	公衆衛生学 〈武山英麿〉	栄養総合演習Ⅳ〈演習科目〉 〈太田・白石・西田・平野・松島・山本〉	
	5	基礎化学Ⅱ〈免許・資格関連科目〉			キャリアサポートⅡ〈全学共通科目〉			食品分析論〈周辺領域科目〉 〈笹川英夫〉				
木	1	基礎栄養学 〈稲荷妙子〉	食品学実験Ⅰ 〈青木恭彦〉	調理学実習Ⅱ 〈小島舞〉	解剖生理学実験 〈太田久彦〉	応用栄養学実習Ⅰ 〈伊藤正江〉	臨床検査実験 〈白石則之〉	病理学演習 〈寺嶋正治〉	公衆栄養学実習 〈長幡友美、端井しげみ〉	栄養カウンセリング実習 〈東山幸恵〉		
	2	栄養教育原論 〈中出美代〉	食品学実験Ⅰ 〈青木恭彦〉	調理学実習Ⅱ 〈小島舞〉	解剖生理学実験 〈太田久彦〉	応用栄養学実習Ⅰ 〈伊藤正江〉	臨床検査実験 〈白石則之〉	公衆衛生学 〈武山英麿〉〈※〉	公衆栄養学実習 〈長幡友美、端井しげみ〉	栄養カウンセリング実習 〈東山幸恵〉	日本文化(華道)〈全学共通科目〉	
	3	臨床栄養学Ⅰ (疾病・医療) 〈寺嶋正治〉	臨床栄養学Ⅱ (病態・栄養管理) 〈兼平奈奈〉	生化学Ⅱ 〈白石則之〉	応用栄養学実習Ⅰ 〈伊藤正江〉	解剖生理学実験 〈太田久彦〉	臨床栄養学実習Ⅱ 〈東山幸江〉	専門演習Ⅰ〈演習〉 〈太田・武山・西田・西堀・松島・山本〉				
	4	英会話Ⅱ、英会話Ⅱ、総合英語Ⅱ〈全学共通科目〉			応用栄養学実習Ⅰ 〈伊藤正江〉	解剖生理学実験 〈太田久彦〉	臨床栄養学実習Ⅱ 〈東山幸江〉	管理栄養士特講Ⅱ〈免許・資格関連科目〉 〈太田・白石・武山・西田・平野・松島・山本〉			教職実践演習〈教職科目〉	
	5				食育指導論Ⅰ〈周辺領域科目〉 〈西堀すき江〉							
金	1	〈全学共通科目〉			食品衛生学実験 〈平野義晃〉	臨床栄養学実習Ⅱ 〈東山幸江〉	給食マネジメント実習Ⅱ 〈長谷川順子〉	共生人間論Ⅱ〈全学共通科目〉				
	2	〈全学共通科目〉			食品衛生学実験 〈平野義晃〉	臨床栄養学実習Ⅱ 〈東山幸江〉	給食マネジメント実習Ⅱ 〈長谷川順子〉	スポーツ栄養学実習〈周辺領域科目〉 〈松島佳子〉				
	3	調理学 〈西堀すき江〉	栄養教育原論 〈中出美代〉	臨床栄養学Ⅰ(疾病・医療) 〈寺嶋正治〉	臨床栄養学実習Ⅱ 〈東山幸江〉	臨床検査実験 〈白石則之〉	解剖生理学実験 〈太田久彦〉	発酵化学〈免許・資格関連科目〉			栄養総合演習Ⅳ〈演習科目〉 〈武山・西田・平野・松島・山本〉	
	4	基礎演習Ⅱ〈演習科目〉 〈兼平・西田・平野・松島・山本〉			臨床栄養学実習Ⅱ 〈東山幸江〉	臨床検査実験 〈白石則之〉	解剖生理学実験 〈太田久彦〉	臨床栄養活動論〈周辺領域科目〉 〈小澤秀子〉			専門演習Ⅱ〈演習科目〉 〈長幡・西堀〉	
	5	キャリアデザインⅡ〈全学共通科目〉			教育課程論〈教職科目〉			学校栄養教育実習指導〈教職科目〉				

【添付資料(7)】

臨地実習（給食経営管理）の実習計画

(1) 実習期間

3年次

(2) 実習施設

愛知県、三重県、岐阜県、その他近隣の管理栄養士が責任者である施設
(事業所、学校、高齢者福祉施設) (別表1参照)

(3) 実習方法

学生 120 名を学生アンケート等のデータをもとに 2～4 名のグループに分け、学生の居住地に比較的近い施設において、給食の運営及び給食経営管理論の実習を 2 週間行う。

(4) 実習指導

担当教員：西堀すき江、長谷川順子、中出美代、長幡友実

巡回指導教員：西堀すき江、長谷川順子、中出美代、長幡友実、武山英麿

(5) 実習先との連携

実習先の実習担当者と本学担当教員が綿密な連絡を取り、実習内容の明確な伝達の上で実習施設の理解と協力を得るようにする。さらに実習前の学内事前オリエンテーションにおいて、実習施設の特徴や実習の心得等の講義を受け、学生が十分な予備知識を得られるようにする。また、学生が各自の実習施設の特徴を踏まえた実習課題を考え、実習先指導担当者と相談の上、課題解決を図り、学内指導教員は専門知識及び技術の統合が図れるように支援する。実習中は、巡回指導教員が、実習先指導担当者と面談し、学生の実習が順調に推移するように配慮する。また、必要に応じて実習施設長や関連部署の責任者に挨拶するなど、実習が円滑に継続できるように配慮する。

実習後には、報告会を開き、実習先の実習担当者と意見を交換し、実習効果を高めるものとする。

別表 1

①事業所一覧

番号	施設名	郵便番号	住所
1	株式会社中部グリーンハウス 株式会社デンソー本社 4 号館営業所	448-0029	愛知県刈谷市昭和町 1-1 デンソーウェル本社御内 ソフトウェアセンター3F(株)中部グリーンハウス
2	株式会社中部グリーンハウス 株式会社デンソー本社 5 号館営業所	448-0029	愛知県刈谷市昭和町 1-1 デンソーウェル本社御内 ソフトウェアセンター7F(株)中部グリーンハウス
3	株式会社中部グリーンハウス 東邦ガス本社営業所	456-0004	名古屋市熱田区桜田町 19 番 18 号 東邦ガス株式会社本社内桜和館 1F
4	株式会社中部グリーンハウス 日本ガイシ本社営業所	456-0023	名古屋市熱田区六野 1-3-16
5	株式会社中部グリーンハウス 中日新聞	460-0001	名古屋市中区三の丸 1-6-1
6	株式会社ジー・ワイ・フードサービス 本社厚生会館	430-8650	静岡県浜松市中沢町 10 番 1 号ヤマハ株式会社内
7	魚国総本社 スズキ湖西工場所 第 1 食堂	431-0451	静岡県湖西市白須賀 4520

②学校等一覧

番号	施設名	郵便番号	住所
1	名古屋市立庄内小学校	451-0083	名古屋市西区新福寺町 2-5-1
2	名古屋市立愛知小学校	454-0803	名古屋市中川区豊成町 1-35
3	名古屋市立砂田橋小学校	461-0045	名古屋市東区砂田橋 3-1-13
4	多治見市学校給食（大畑調理場）	507-0818	岐阜県多治見市大畑町 3-114-2
5	郡上市八幡学校給食センター	501-4222	岐阜県郡上市八幡町小野 8 丁目 5 番地 1
6	瑞浪市学校給食センター	509-6101	岐阜県瑞浪市土岐町 7790-1
7	土岐市学校給食センター	509-5114	岐阜県土岐市肥田町浅野 17 番地の 1
8	高山市学校給食センター	506-0807	岐阜県高山市三福寺町 495
9	多気学校給食センター管理組合	519-2181	三重県多気郡多気町大字相可 1540
10	志摩市立阿児学校給食センター	517-0214	三重県志摩市阿児町神明 1538 の 10
11	鈴鹿市立桜島小学校	513-0817	三重県鈴鹿市桜島町 4 丁目 12 番
12	松川町立松川中央小学校	399-3303	長野県下伊那郡松川町元大島 3732-9
13	浅井学校給食センター	526-0244	滋賀県長浜市内保町 627
14	米子市立学校給食センター	683-0045	鳥取県米子市大谷町 28 番地 8

③高齢者福祉施設一覧

番号	施設	郵便番号	住所
1	医療法人幸会老人保健施設 みず里	454-0963	名古屋市中川区水里1丁目23番地
2	社会福祉法人八起社 特別養護老人ホーム 誠和荘	468-0001	名古屋市天白区植田山2-101
3	社会福祉法人高坂福社会 特別養護老人ホーム 高坂苑	468-0025	名古屋市天白区高坂町197-1
4	愛知県弥富寮	498-0000	愛知県弥富市栄南町7番2
5	老人保健施設 すこやか荘	489-0904	愛知県瀬戸市すみれ台4-17-7
6	老人保健施設 瑞穂	467-0846	名古屋市瑞穂区荒崎町6-29
7	愛厚ホーム小牧苑	485-0801	愛知県小牧市大山字岩次208-15
8	愛厚ホーム大府苑	474-0031	愛知県大府市森岡町尾坂田1-18
9	社会福祉法人サン・ビジョン 特別養護老人ホーム グレイスフル熱田	456-0033	名古屋市熱田区花表町1番26号
10	社会福祉法人なごや福祉施設協会 特別養護老人ホーム なごやかハウス福原	466-0803	名古屋市昭和区福原町1丁目40番地
11	社会福祉法人なごや福祉施設協会 特別養護老人ホーム なごやかハウス岳見	467-0043	名古屋市瑞穂区岳見町三丁目4番地の1
12	郡上偕楽園	501-4610	岐阜県郡上市大和町島2347-6
13	社会福祉法人花園福社会 特別養護老人ホーム 長寿苑	511-0911	三重県桑名市額田1256-2
14	医療法人里仁会 介護老人保健施設 老健中部	510-0082	三重県四日市市中部8-15
15	山田赤十字老人保健施設 虹の苑	516-0805	三重県伊勢市御薮町高向775-1
16	特別養護老人ホーム 英水苑	512-1212	三重県四日市市智積町中須34-1
17	特別養護老人ホーム 伊勢マリンホーム	510-0227	三重県鈴鹿市南若松町字南新田1
18	社会福祉法人三和会 養護老人ホーム 砂丘寮	432-8054	静岡県浜松市田尻町1167
19	介護老人福祉施設 浜松十字の園	431-1304	静岡県浜松市細江町中川7220-11
20	社会福祉法人天竜厚生会 特別養護老人ホーム 百々山	431-3492	静岡県浜松市天竜区渡ヶ島217番地の3
21	特別養護老人ホーム 伊香の里	529-0426	滋賀県長浜市木之本町大字黒田1221番地
22	老人保健施設 チューリップ苑	930-0974	富山県富山市長江5丁目514-2
23	特別養護老人ホーム 愛寿苑	918-8055	福井県福井市若杉2丁目601
24	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 鳥取県済生会介護老人保健施設 はまかぜ	684-0062	鳥取県境港市蓮池町78-1

【添付資料(8)】

臨地実習（臨床栄養）の実習計画

(1) 実習期間

3年次

(2) 実習施設

愛知県、三重県、岐阜県など近県の病院（別表2参照）

(3) 実習方法

学生 120 名を学生アンケート等のデータをもとに 2～4 名のグループに分け、学生の居住地に比較的近い施設において、臨床栄養学の実習を 2 週間行う。一施設で 1～2 サイクル実習する。

(4) 実習指導

担当教員：兼平奈奈、寺嶋正治、山本由喜子、端井しげみ

巡回指導教員：兼平奈奈、寺嶋正治、山本由喜子、端井しげみ、太田久彦、白石則之

(5) 実習先との連携

実習先の実習担当者と本学担当教員が綿密な連絡を取り、実習内容の明確な伝達の上で実習施設の理解と協力を得るようにする。さらに実習前の学内事前オリエンテーションにおいて、実習施設の特徴や実習の心得等の講義を受け、学生が十分な予備知識を得られるようにする。また、学生が各自の実習施設の特徴を踏まえた実習課題を考え、実習先指導担当者と相談の上、課題解決を図り、学内指導教員は専門知識及び技術の統合が図れるように支援する。実習中は、巡回指導教員が、実習先指導担当者と面談し、学生の実習が順調に推移するように配慮する。また、必要に応じて実習施設長や関連部署の責任者に挨拶するなど、実習が円滑に継続できるように配慮する。

実習後には、報告会を開き、実習先の実習担当者と意見を交換し、実習効果を高めるものとする。

別表 2

①病院一覧

番号	施設名	郵便番号	住所
1	藤田保健衛生大学病院	470-1192	愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 番地の 98
2	名古屋掖済会病院	454-8502	名古屋市中川区松年町 4-66
3	医療法人 香徳会 メイトウホスピタル	465-0025	名古屋市名東区上社 3 丁目 1911 番地
4	医療法人 博報会 岡崎東病院	444-0008	愛知県岡崎市洞町向山 16-2
5	医療法人 偕行会 名古屋共立病院	454-0933	名古屋市中川区法華 1-172
6	独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター	460-0001	名古屋市中区三の丸 4 丁目 1-1
7	医療法人 豊寿会 斉藤病院	470-0373	愛知県豊田市四郷町森前 166-1
8	医療法人 社団 喜峰会 東海記念病院	487-0031	愛知県春日井市廻間町字大洞 681-47
9	名古屋市立大学病院	467-8602	名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄 1
10	名古屋第二赤十字病院	466-8650	名古屋市昭和区妙見町 2 番地 9
11	独立行政法人 国立病院機構 東尾張病院	463-0802	名古屋市守山区大森北 2 丁目 1301 番地
12	医療法人 愛生会 総合上飯田第一病院	462-0802	名古屋市北区上飯田北町 2-70
13	独立行政法人 国立病院機構 東名古屋病院	465-8620	名古屋市名東区梅森坂 5 丁目 101 番地
14	独立行政法人 労働者健康福祉機構 中部労災病院	455-8530	名古屋市港区港明一丁目 10 番 6 号
15	医療法人 名古屋記念財団 名古屋記念病院	468-8520	名古屋市天白区平針 4-305
16	名古屋市厚生院附属病院	465-8610	名古屋市名東区勢子坊 2-1501
17	医療法人 北辰会 蒲郡厚生館病院	443-0035	愛知県蒲郡市栄町 11-13
18	国立大学法人 岐阜大学医学部附属病院	501-1194	岐阜県岐阜市柳戸 1 番 1
19	社会医療法人 蘇西厚生会 松波総合病院	501-6062	岐阜県羽島郡笠松町田代 185 番地の 1
20	地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院	507-8522	岐阜県多治見市前畑町 5-161
21	医療法人 仁寿会 タジミ第一病院	507-0007	岐阜県多治見市小名田町西ヶ洞 1-648
22	国民健康保険 坂下病院	509-9293	岐阜県中津川市坂下 722-1
23	大垣市民病院	503-8502	岐阜県大垣市南瀬町 4 丁目 86 番地
24	岐阜県厚生農業協同組合連合会 西美濃厚生病院	503-1394	岐阜県養老郡養老町押越 986
25	総合病院 高山赤十字病院	506-8550	岐阜県高山市天満町 3-11
26	岐阜県厚生農業協同組合連合会 久美愛厚生病院	506-8502	岐阜県高山市大新町 5 丁目 68 番地
27	郡上市民病院	501-4222	岐阜県郡上郡八幡町島谷 1261 番地

28	羽島市民病院	501-6206	岐阜県羽島市竹鼻町新生 3-246
29	医療法人 永井病院	514-8508	三重県津市西丸之内 29-29
30	独立行政法人国立病院機構 三重病院	514-0125	三重県津市大里窪田町 357
31	三重県厚生農業協同組合連合会 松阪中央総合病院	515-8566	三重県松阪市川井町字小望 102
32	医療法人 富田浜病院	510-8008	三重県四日市市富田浜町 26-14
33	四日市社会保険病院	510-0016	三重県四日市市羽津山町 10 番 8 号
34	三重県厚生農業協同組合連合会 いなべ総合病院	511-0428	三重県いなべ市北勢町阿下喜 771
35	山田赤十字病院	516-0805	三重県伊勢市御薮町高向 810 番地
36	三重県厚生農業協同組合連合会 鈴鹿中央総合病院	513-8630	三重県鈴鹿市安塚町山之花 1275-53
37	市立伊勢総合病院	516-0014	三重県伊勢市楠部町 3038
38	三重県立志摩病院	517-0501	三重県志摩市阿児町鶴方 1257
39	飯田市立病院	395-8502	長野県飯田市八幡町 438 番地
40	県西部浜松医療センター	432-8580	静岡県浜松市中区富塚町 328
41	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院	430-8558	静岡県浜松市住吉二丁目 12-12
42	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院	433-8558	静岡県浜松市北区三方原町 3453
43	JA 静岡厚生連 遠州病院	430-0929	静岡県浜松市中区中央一丁目 1 番 1 号
44	長浜赤十字病院	526-8585	滋賀県長浜市宮前町 14 番 7 号
45	富山県立中央病院	930-0975	富山県富山市西長江 2-2-78
46	社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院	918-8503	福井県福井市和田中町舟橋 7 番地 1
47	福井県立病院	910-8526	福井県福井市四ツ井 2-8-1
48	京都第一赤十字病院	605-0981	京都府京都市東山区本町 15-749
49	学校法人 北里研究所 北里大学病院	228-8555	神奈川県相模原市北里 1-15-1
50	鳥取大学医学部附属病院	683-8504	鳥取県米子市西町 36-1